平成２２年７月９日
地震調査研究推進本部
地震調査委員会

２０１０年６月の地震活動の評価

１．主な地震活動

○　６月 13 日に福島県沖でマグニチュード（M）6.2 の地震が発生し、福島県で最大震度５弱を観測した。

２．各地方別の地震活動

（１）北海道地方

○　６月５日に北海道東方沖で M5.5 の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

○　６月 18 日に択捉島南東沖で M6.5 の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

○　６月 28 日に苫小牧沖の深さ約 55km で M5.1 の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。

（２）東北地方

○　６月 13 日に福島県沖の深さ約 40km で M6.2 の地震が発生した。この地震の発震機構は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。ＧＰＳ観測結果には、この地震の前後で特段の変化は認められない。

（３）関東・中部地方

目立った活動はなかった。

東海地方のＧＰＳ観測結果等には特段の変化は見られない。

（４）近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

（５）九州・沖縄地方

○　６月 13 日に奄美大島北西沖で M5.2 の地震が発生した。この地震の発震機構は北北西－南南東方向に張力軸を持つ正断層型であった。

補足

○　７月４日に岩手県内陸南部の深さ約５kmでM5.2の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、地殻内で発生した地震である。

○　７月４日に茨城県南部の深さ約90kmでM4.5の地震が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した地震である。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に張力軸を持つ型であった。

○　７月５日に岩手県沖の深さ約35kmでM6.4の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

２０１０年６月の地震活動の評価についての補足説明

平成 22 年７月９日
地 震 調 査 委 員 会

１．主な地震活動について

2010 年６月の日本およびその周辺域におけるマグニチュード（M）別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0 以上および M5.0 以上の地震の発生は、それぞれ 95 回（５月は 67 回）および 14 回(５月は６回)であった。また、M6.0 以上の地震の発生は２回で、2010 年は６月までに 11 回発生している。

（参考）　M4.0 以上の月回数 73 回（1998-2007 年の 10 年間の中央値)、
M5.0 以上の月回数９回（1973-2007 年の 35 年間の中央値)、
M6.0 以上の月回数 1.4 回、年回数約 17 回(1924-2007 年の 84 年間の平均値)

2009 年６月以降 2010 年５月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあった。

- 駿河湾　2009 年８月 11 日 M6.5（深さ約 25km）
- 八丈島東方沖　2009 年８月 13 日 M6.6
- 石垣島近海　2009 年８月 17 日 M6.7, M6.6
- 伊豆半島東方沖　2009 年 12 月 17 日 M5.0、18 日 M5.1 などの地震活動
- 石垣島近海　2010 年２月７日 M6.5
- 沖縄本島近海　2010 年２月 27 日 M7.2
- チリ中部沿岸　2010 年２月 27 日 Mw8.8
- 福島県沖　2010 年３月 14 日 M6.7

２．各地方別の地震活動

（１）北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

（２）東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

（３）関東・中部地方

「東海地方のＧＰＳ観測結果等には特段の変化は見られない。」:
（なお、これは、６月 28 日に開催された地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会における見解（参考参照）と同様である。）

(参考)最近の東海地域とその周辺の地震･地殻活動(平成 22 年６月 28 日気象庁地震火山部)
「現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。
１．地震活動の状況
静岡県中西部の地殻内では、全体的にみて、2005 年中頃からやや活発な状態が続いています。
浜名湖周辺のフィリピン海プレート内では、引き続き地震の発生頻度のやや少ない状態が続いています。その他の領域では概ね平常レベルです。
２．地殻変動の状況

全般的に注目すべき特別な変化は観測されていません。
ＧＰＳ観測及び水準測量の結果では、御前崎の長期的な沈降傾向はこれまでと同様に継続しています。」

－八丈島東方沖（海溝軸の東側）で、５月 29 日頃から M4.8 を最大とする、やや活発な地震活動が発生している。

（４）近畿・中国・四国地方

－豊後水道周辺で 2009 年秋頃から見られている非定常的な地殻変動は、引き続き観測されている。この変化は、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界におけるゆっくりとした滑り（スロースリップ）に起因するものと考えられる。

（５）九州・沖縄地方

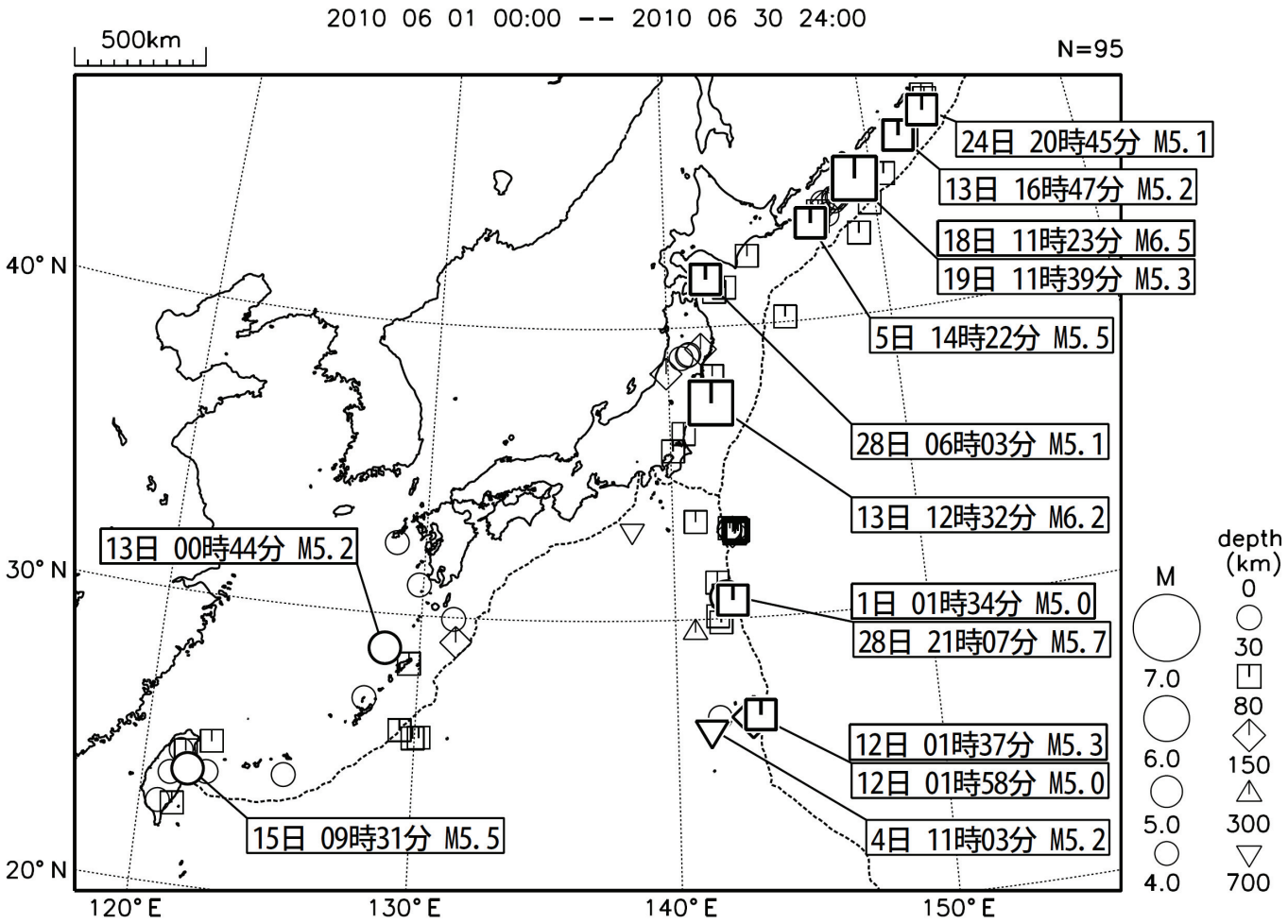
「６月 13 日に奄美大島北西沖で M5.2 の地震が発生した。（以下、略）」:
奄美大島北西沖では５月 16 日頃からやや活発な地震活動が発生しており、今回の地震は地震活動が低下している中で発生した。

補足

「７月４日に岩手県内陸南部の深さ約５km で M5.2 の地震が発生した。（以下、略）」:
今回の地震は「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」（M7.2）の余震域内で発生した。また、同余震域内で M5.0 以上の地震が発生したのは、2008 年６月 16 日の M5.3 の地震（最大震度４）以来である。

参考１　「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安 ①M6.0 以上または最大震度が４以上のもの。②内陸 M4.5 以上かつ最大震度が３以上のもの。 ③海域 M5.0 以上かつ最大震度が３以上のもの。
参考２　「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安 １　「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。 ２　「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。 ３　評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。

2010 年６月の全国の地震活動
（マグニチュード 4.0 以上）



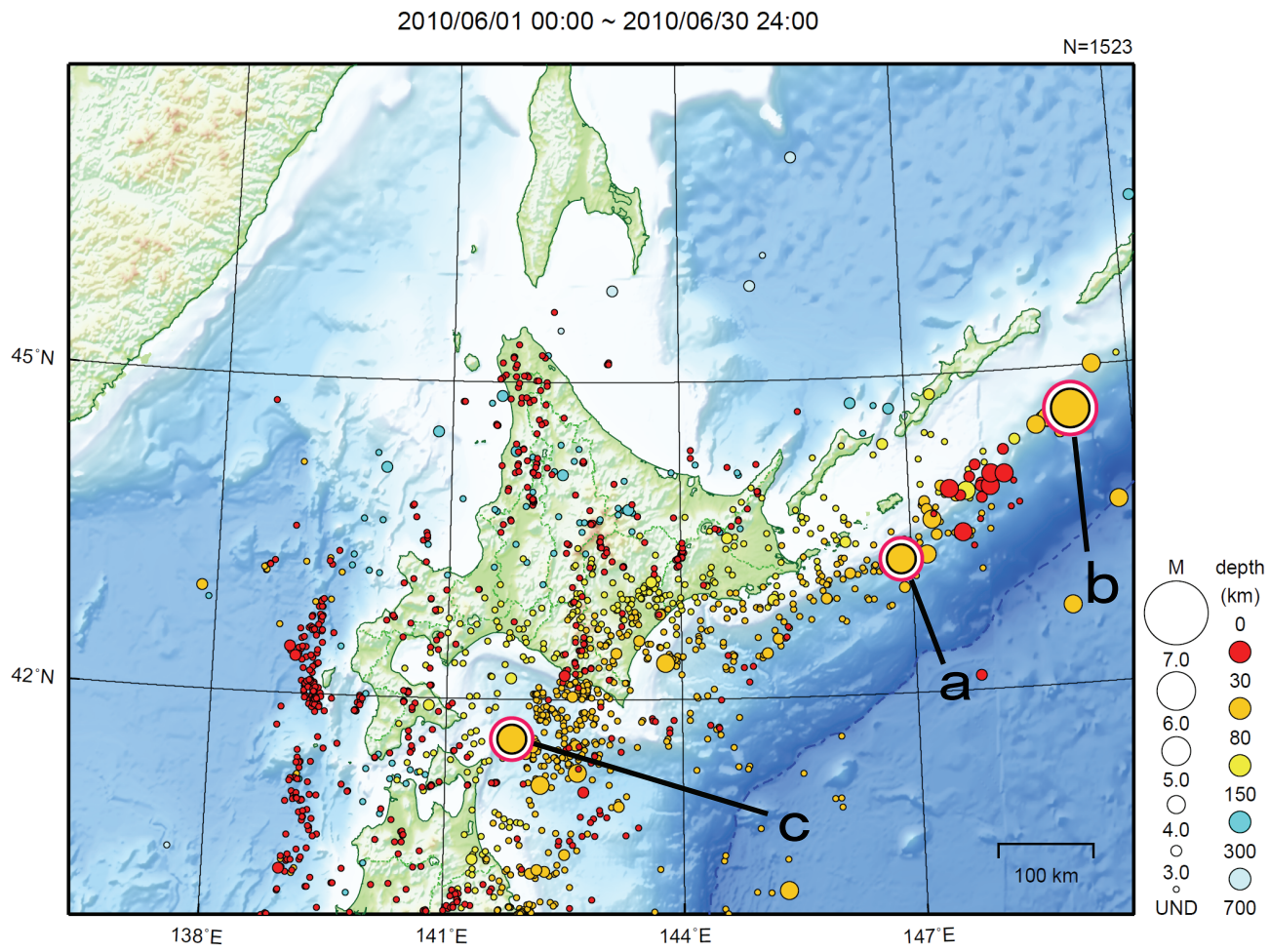
・６月 13 日に福島県沖で M6.2 の地震（最大震度５弱）が発生した。
・６月 18 日に択捉島南東沖で M6.5 の地震（最大震度３）が発生した。

（上記期間外）
・７月５日に岩手県沖で M6.4 の地震（最大震度４）が発生した。

［図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。］

気象庁・文部科学省（気象庁作成資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています）

北海道地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

a） ６月５日に北海道東方沖で M5.5 の地震（最大震度３）が発生した。

b） ６月 18 日に択捉島南東沖で M6.5 の地震（最大震度３）が発生した。

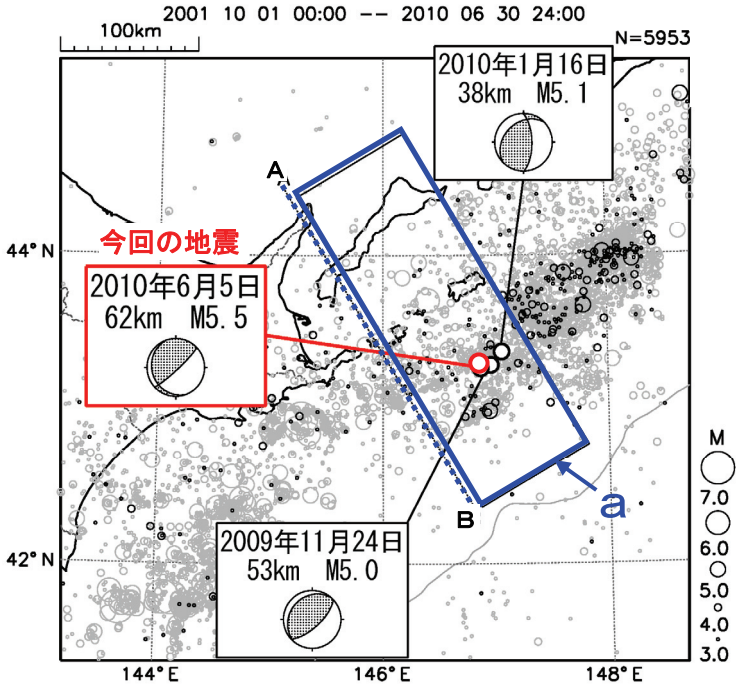
c） ６月 28 日に苫小牧沖で M5.1 の地震（最大震度４）が発生した。

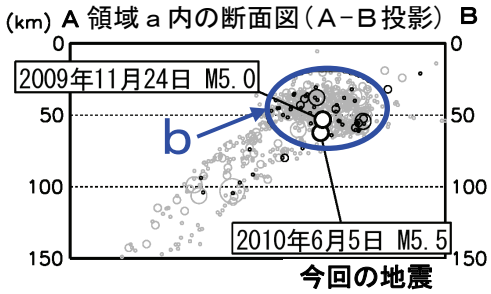
［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

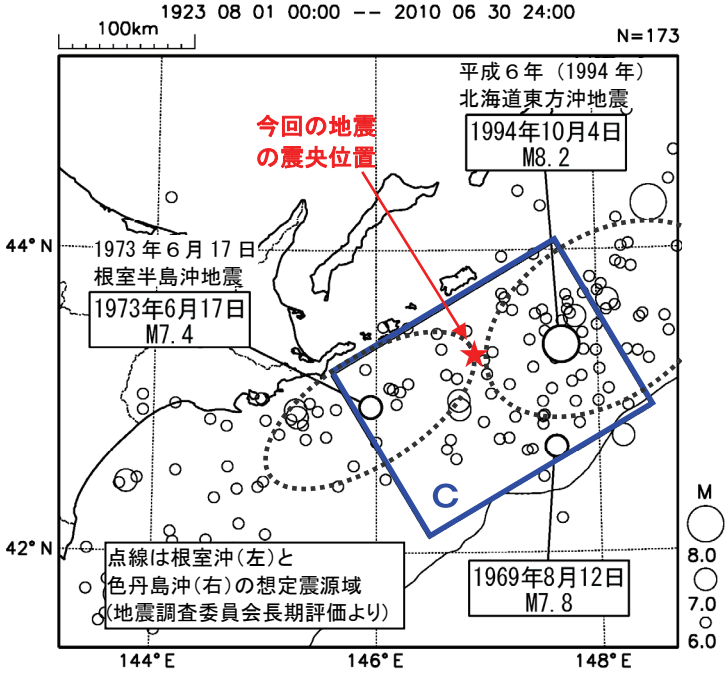
６月５日　北海道東方沖の地震

震央分布図
（2001 年 10 月以降、深さ０～150km、M≧3.0）
※発震機構は CMT 解。2009 年 11 月以降を濃く表示。





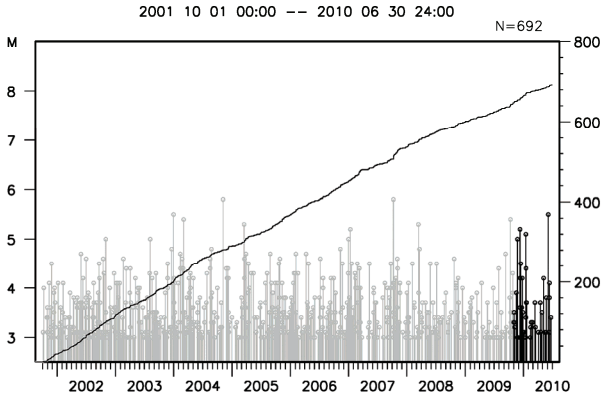
震央分布図
（1923 年８月以降、深さ０～100km M≧6.0）



2010 年６月５日 14 時 22 分に北海道東方沖の深さ 62km で M5.5 の地震（最大震度３）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

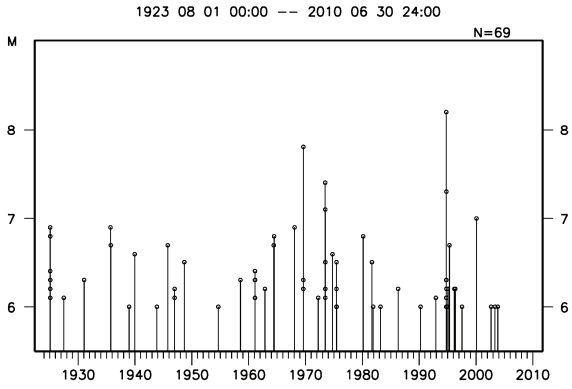
2001 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の震源周辺（領域ｂ）では、M5.0 以上の地震が度々発生しており、最近では、2010 年１月 16 日に M5.1 の地震（最大震度３）が発生している。

領域ｂ内の地震活動経過図、
回数積算図



1923 年８月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M7.0 以上の地震が時々発生している。「平成 6 年（1994 年）北海道東方沖地震」（M8.2、最大震度６）では、日本国内では負傷者 436 人等の被害や津波（国内の最大は根室市花咲の 168cm）による被害も発生した（被害は「最新版 日本被害地震総覧」による」）。

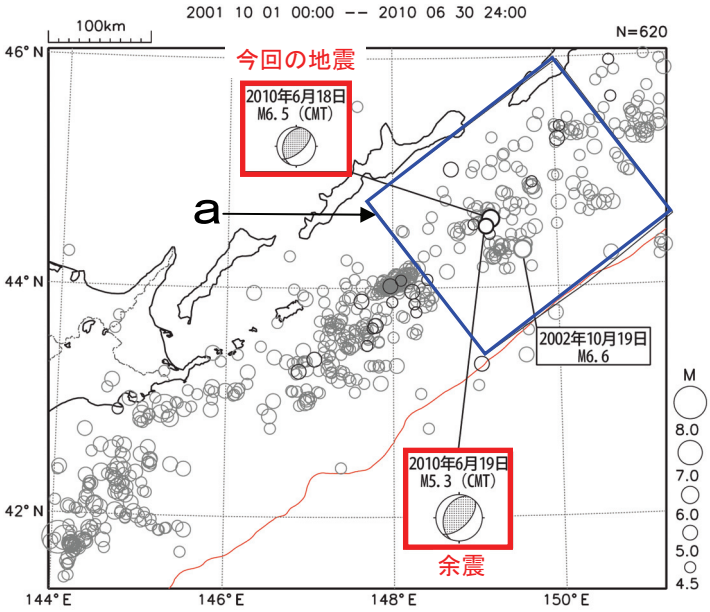
領域ｃ内の地震活動経過図



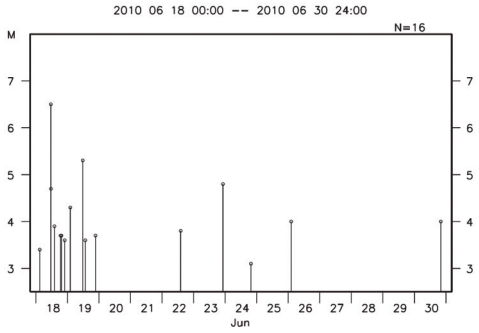
気象庁作成

６月 18 日　択捉島南東沖の地震

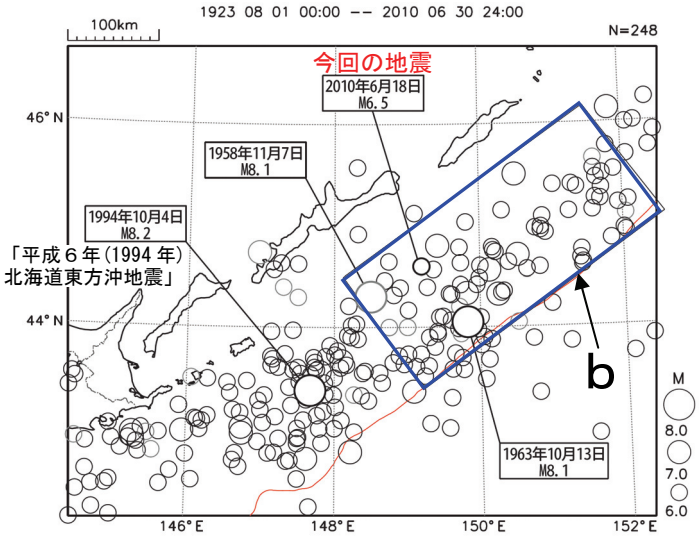
震央分布図
（2001 年 10 月１日以降、深さ 100km 以浅、M≧4.5）
2010 年１月以降に発生した地震を濃く表示



領域ａ内の余震の状況（M≧3.0）



震央分布図
（1923 年８月以降、深さ 100km 以浅、M≧6.0）

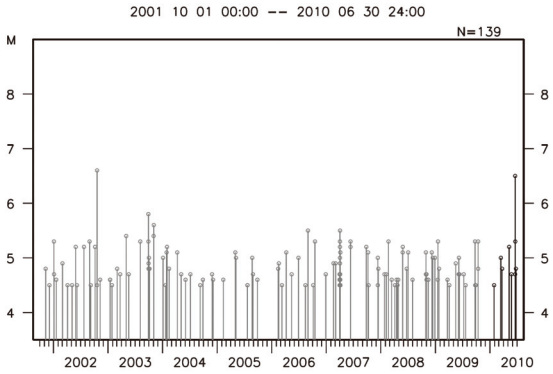


2010 年６月 18 日 11 時 23 分に択捉島南東沖で M6.5 の地震（最大震度３）が発生した。今回の地震の発震機構（CMT 解）は、北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、プレート境界で発生する地震によく見られる型であった。

また、６月 19 日 11 時 39 分には M5.3 の余震（最大震度１）が発生し、この地震の発震機構（CMT 解）も北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

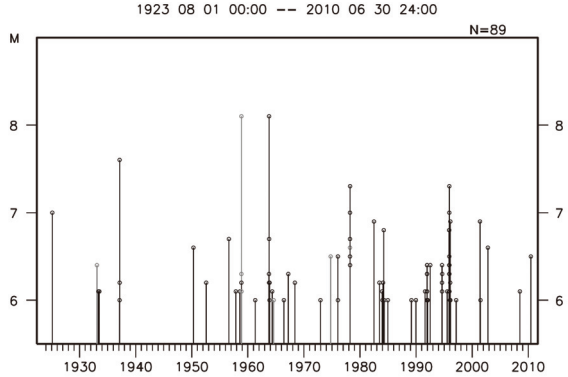
2001 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域ａ）では、M5.0 以上の地震が度々発生しており、2002 年 10 月 19 日には M6.6 の地震が発生している。

領域ａ内の地震活動経過図



1923 年８月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）は M7.0～8.0 の地震が数十年間隔で発生している領域で、今回の地震の震央付近では 1958 年 11 月 7 日、1963 年 10 月 13 日にそれぞれ M8.1 の地震が発生し、1963 年の地震では津波により三陸沿岸で漁業施設に軽微な被害があった（「最新版　日本被害地震総覧」による）。

領域ｂ内の地震活動経過図



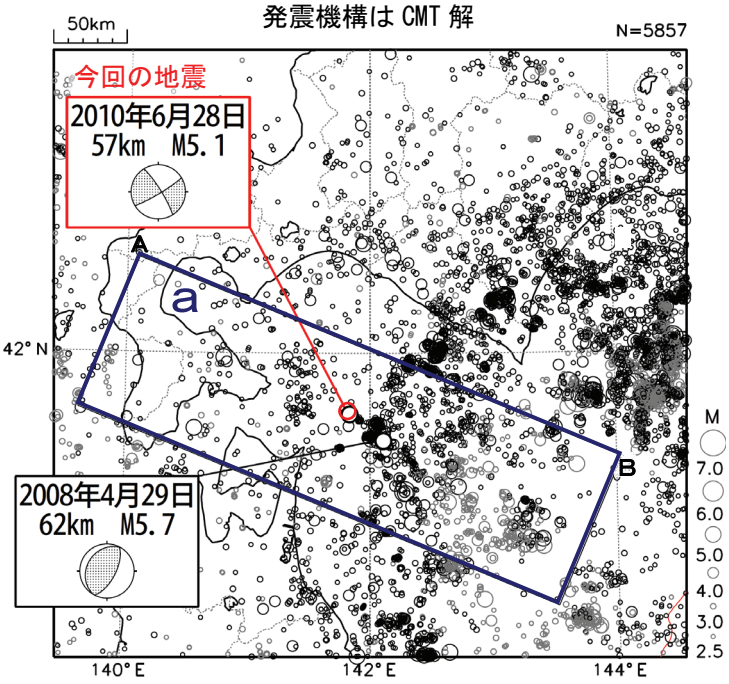
気象庁作成

６月 28 日　苫小牧沖の地震

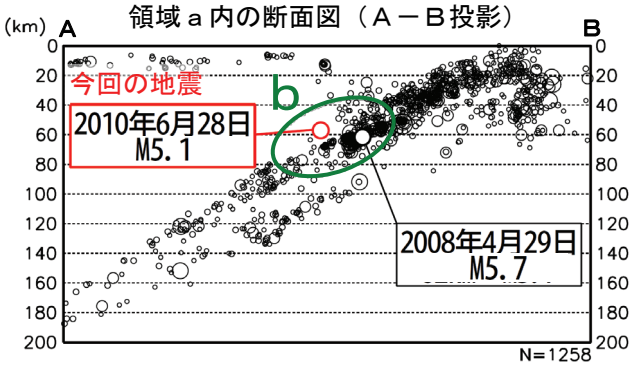
2010 年６月 28 日 06 時 03 分に苫小牧沖の深さ 57km で M5.1 の地震（最大震度４）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は西北西－東南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。

今回の地震の震源付近（領域ｂ）では、2008 年４月 29 日に発生した M5.7 の地震（最大震度４、負傷者２人）など、M5.0 以上の地震が、2001 年 10 月以降、今回の地震も含めて６回発生している（被害は総務省消防庁による）。

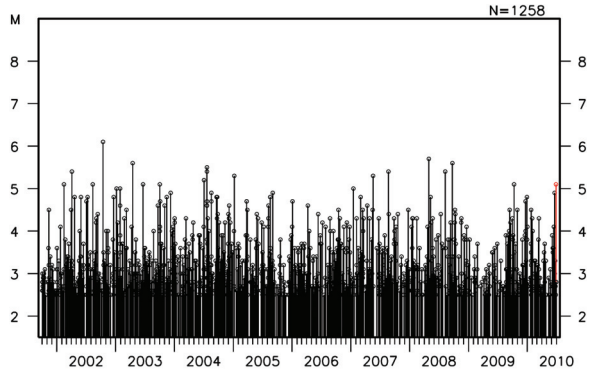
震央分布図
（1997 年 10 月１日～2010 年６月 30 日、
深さ０～200km、M≧2.5）
深さ 30～200km で発生した地震を濃く表示
発震機構は CMT 解



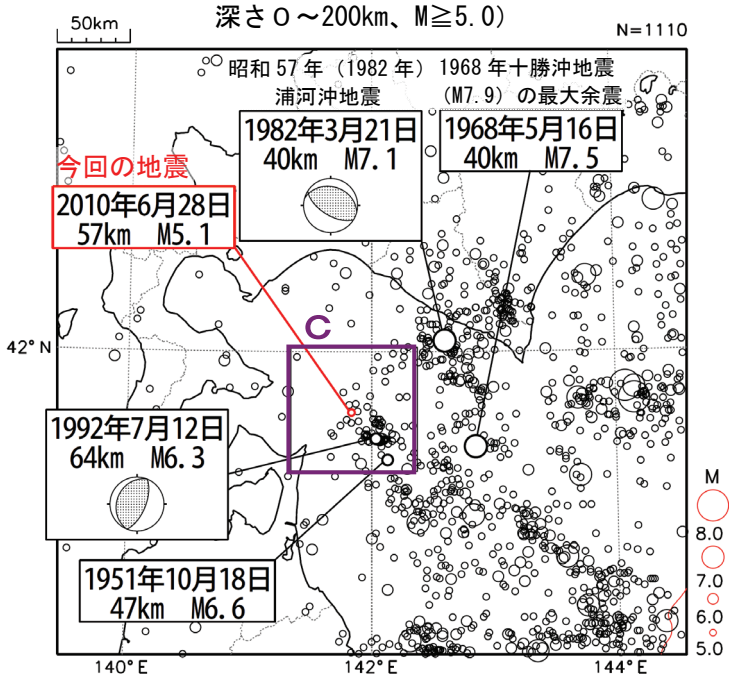
領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



領域ｂ内の地震活動経過図

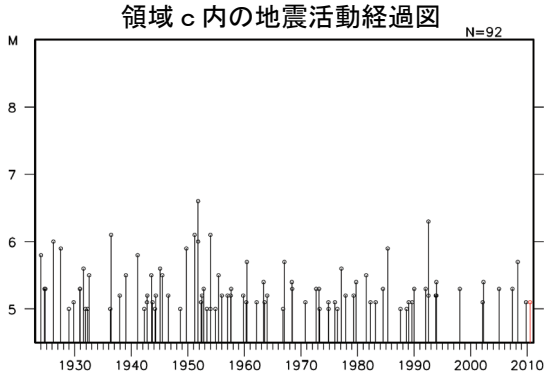


震央分布図
（1923 年８月１日～2010 年６月 30 日、
深さ０～200km、M≧5.0）



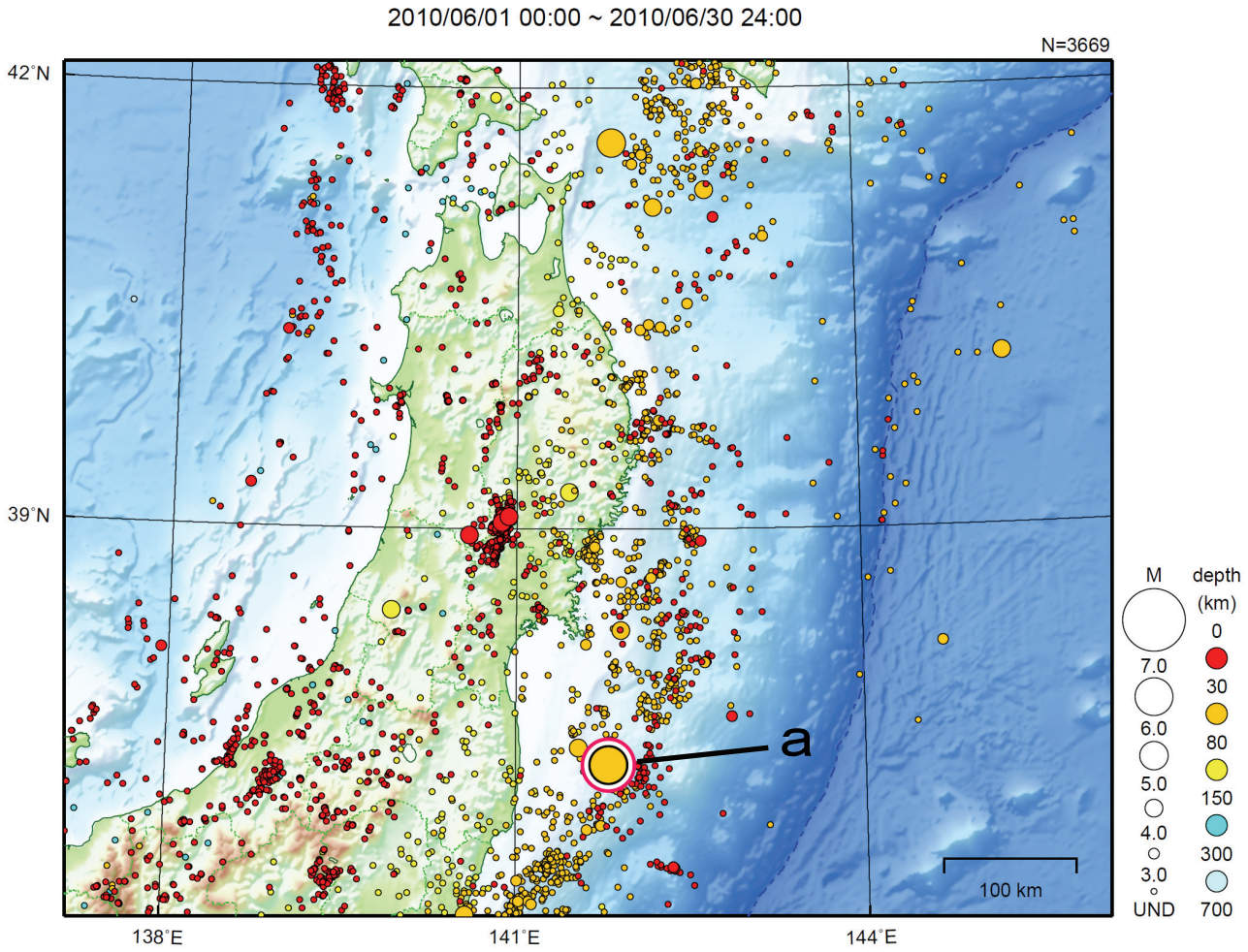
1923 年８月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域ｃ）では、M6.0 以上の地震が７回発生している。また、東方のより海溝に近いところでは、「1968 年十勝沖地震」の最大余震（M7.5、最大震度５）や「昭和 57 年（1982 年）浦河沖地震」（M7.1、負傷者 167 人、建物被害 210 棟等）など、M7.0 以上の地震も発生している（被害は「最新版 日本被害地震総覧」による）。

領域ｃ内の地震活動経過図



気象庁作成

東北地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

a） ６月 13 日に福島県沖で M6.2 の地震（最大震度５弱）が発生した。

（上記期間外）

７月４日に岩手県内陸南部で M5.2 の地震（最大震度４）が発生した。

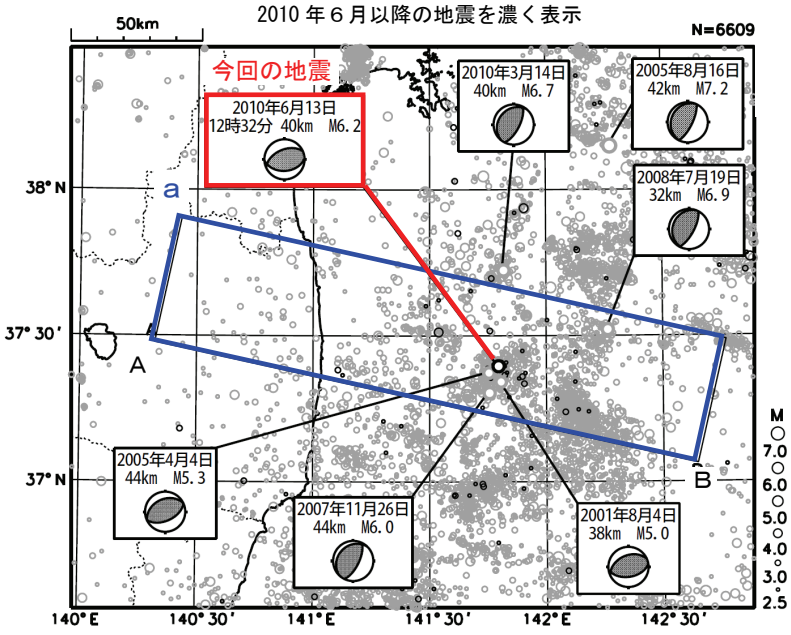
７月５日に岩手県沖で M6.4 の地震（最大震度４）が発生した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

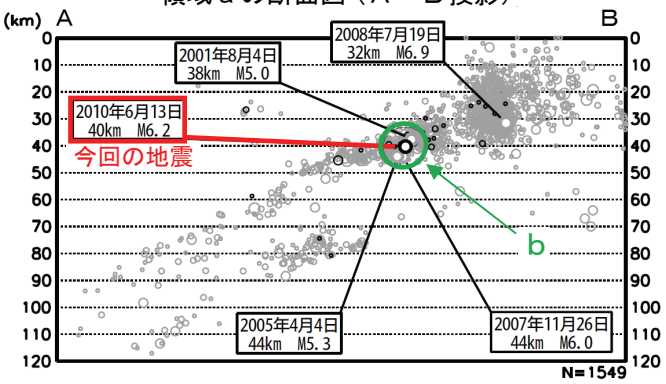
６月 13 日　福島県沖の地震

震央分布図（2000 年１月１日～2010 年６月 30 日、
深さ 0～120km、M≧2.5）

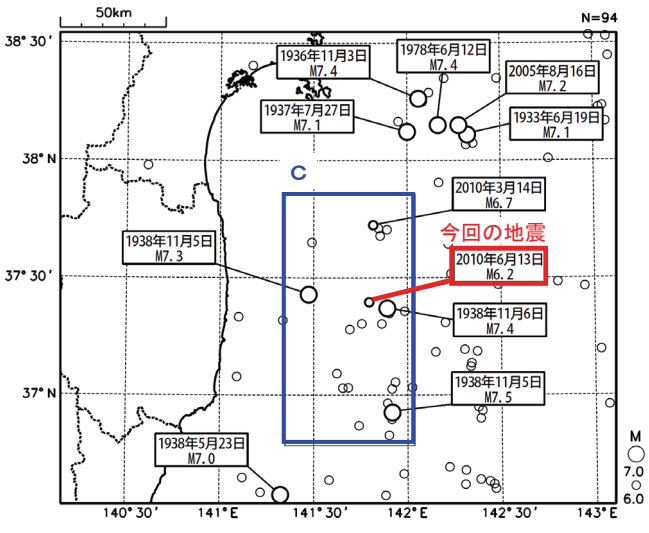


発震機構は CMT 解を表示

領域ａの断面図（Ａ－Ｂ投影）



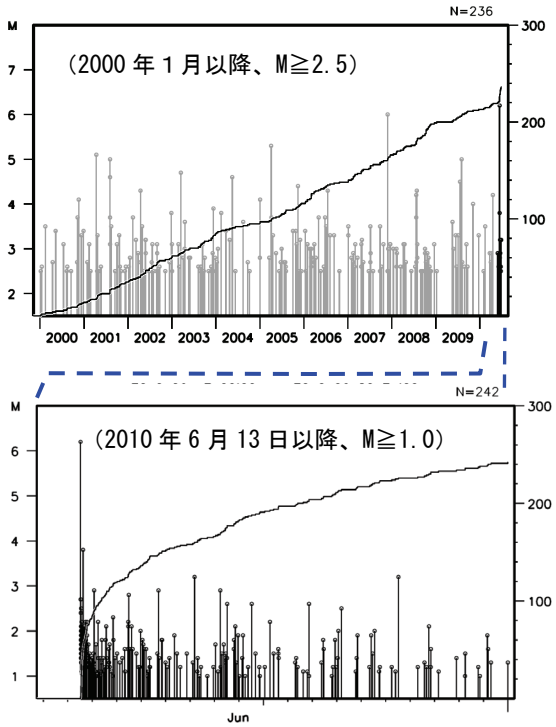
震央分布図（1923 年８月１日～2010 年６月 30 日
深さ 0～90km、M≧6.0）



2010 年６月 13 日 12 時 32 分に福島県沖の深さ 40km で M6.2 の地震（最大震度５弱）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震である。余震活動は収まりつつある。

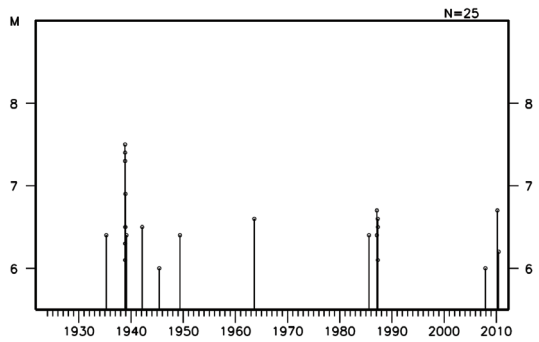
2000 年１月以降の地震活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ内）では、2007 年 11 月 26 日に M6.0 の地震（最大震度４）が発生している。

領域ｂ内の地震活動経過図・回数積算図



1923 年８月以降の地震活動をみると、今回の地震の震央付近（領域ｃ内）では、1938 年に M7.5 を最大とする地震活動が発生しており、これらの地震活動のうち、今回の震央付近では 11 月６日に M7.4 の地震が発生している。

領域ｃ内の地震活動経過図

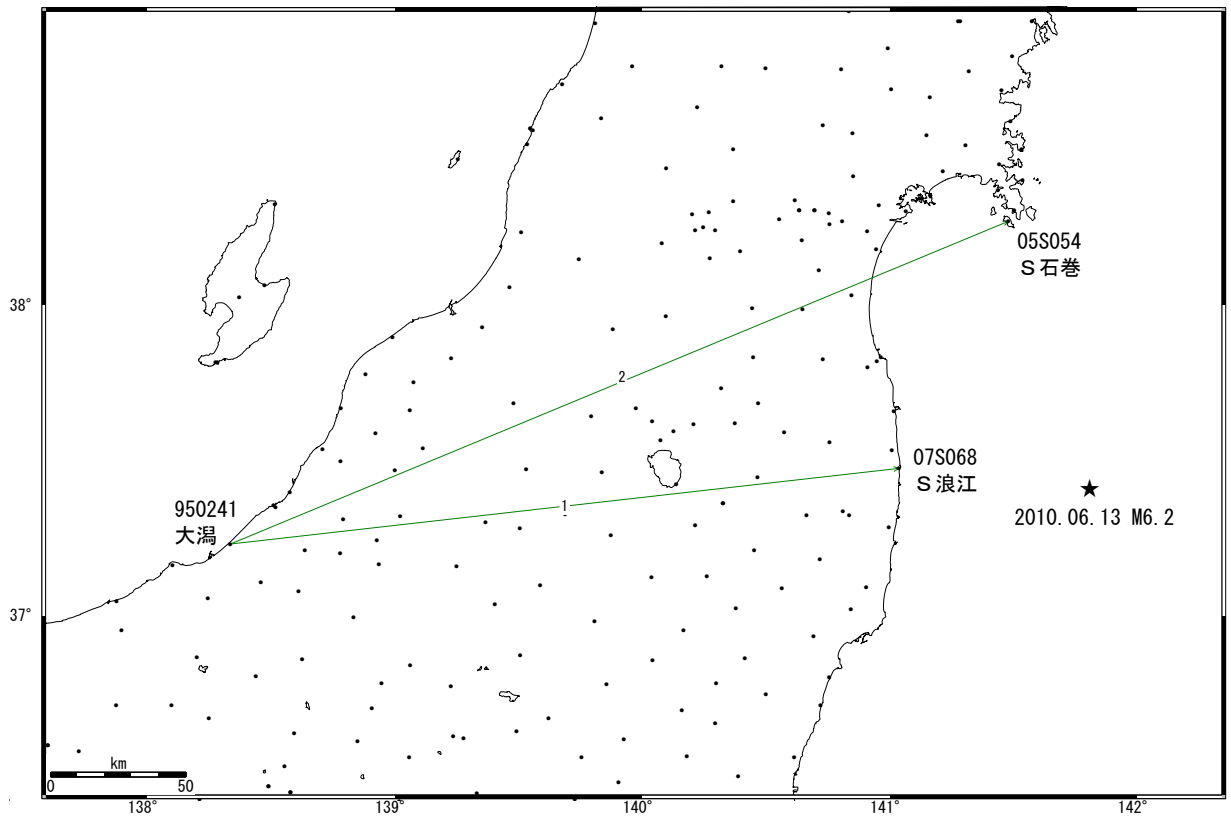


気象庁作成

福島県沖の地震(6月13日, M6.2)前後の地殻変動

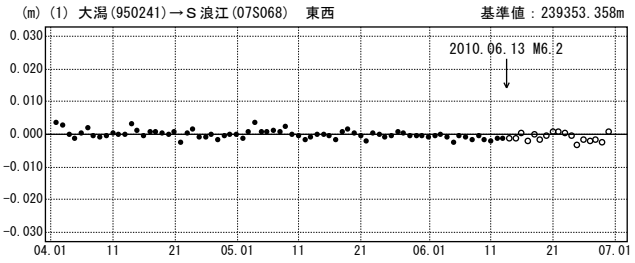
この地震に伴う明確な地殻変動は見られない.

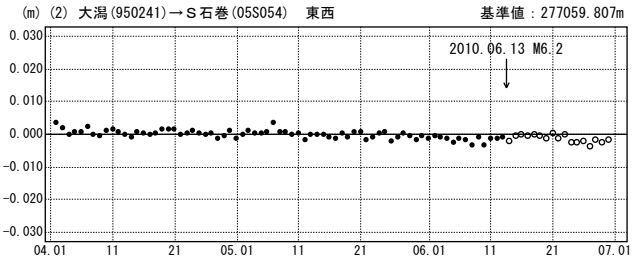
基線図

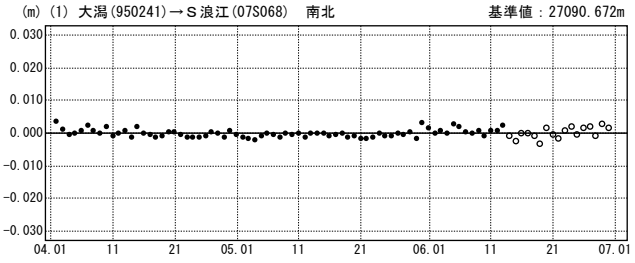


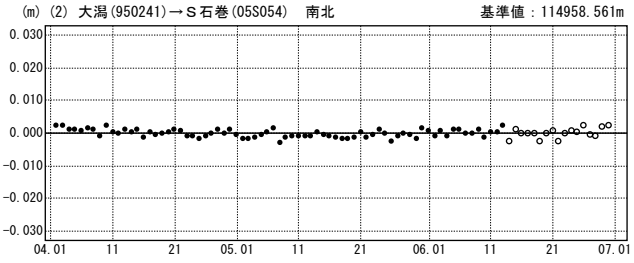
成分変化グラフ

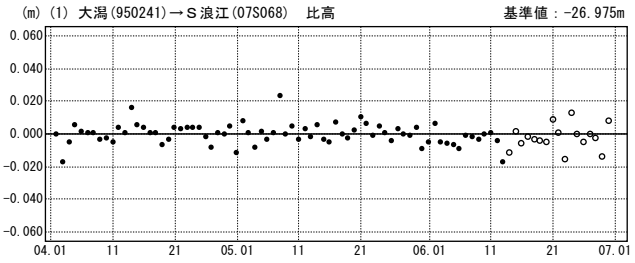
期間 : 2010.04.01～2010.07.01 JST

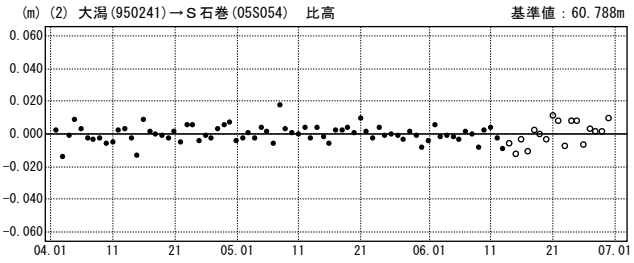












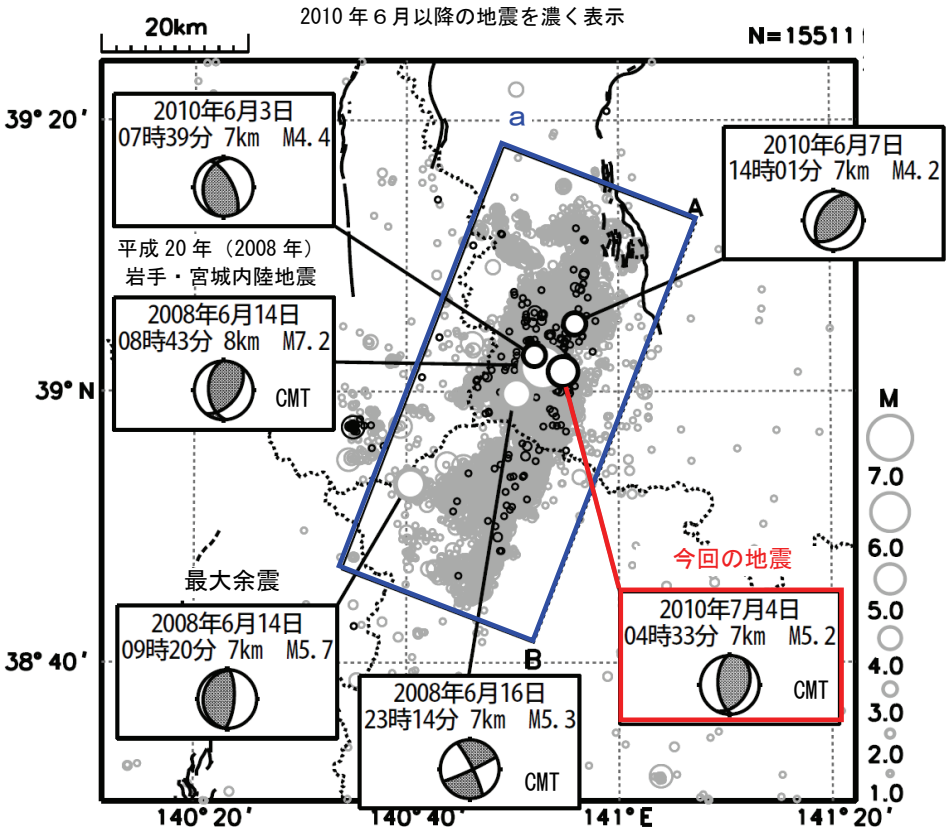
● ---[F3:最終解] ○ ---[R3:速報解]

国土地理院

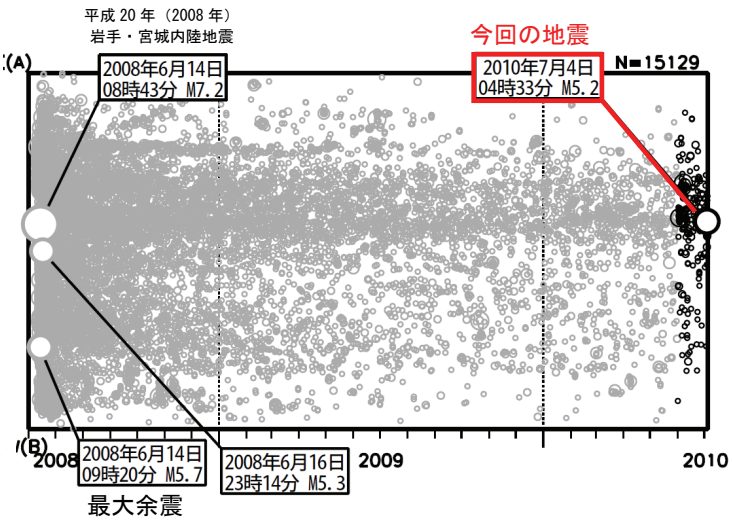
７月４日　岩手県内陸南部の地震

2010 年７月４日 04 時 33 分に岩手県内陸南部の深さ７km で M5.2 の地震（最大震度４）が発生した。この地震の発震機構(CMT 解)は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震は「平成 20 年(2008 年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で発生した地震である。M5.0 を超えた余震は、2008 年６月 16 日に発生した地震（M5.3、最大震度４）以来である。

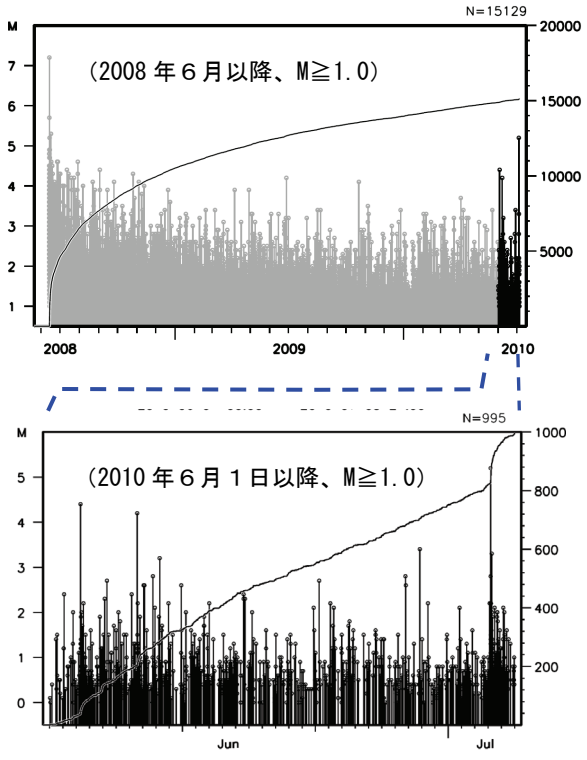
震央分布図（2008 年６月１日～2010 年７月５日、深さ 0～20km、M≧1.0）



領域 a 内の時空間分布図（Ａ－Ｂ投影）



領域 a の地震活動経過図・回数積算図

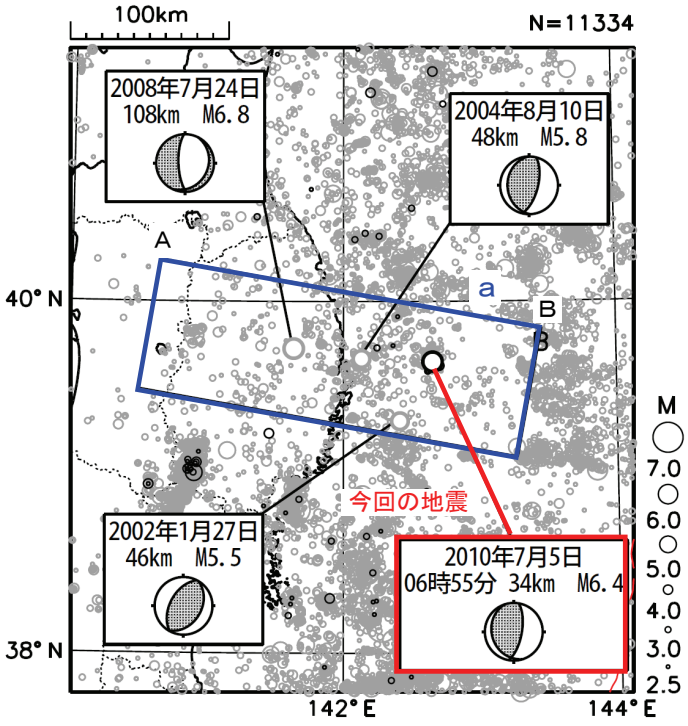


気象庁作成

７月５日　岩手県沖の地震

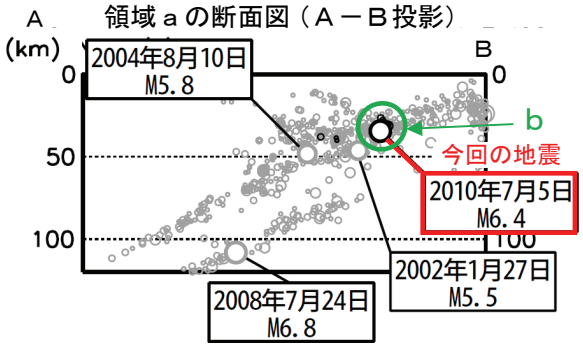
震央分布図（1997 年 10 月 1 日～2010 年 7 月 5 日、深さ 0～120km、M≧2.5）

2010 年 6 月以降の地震を濃く表示

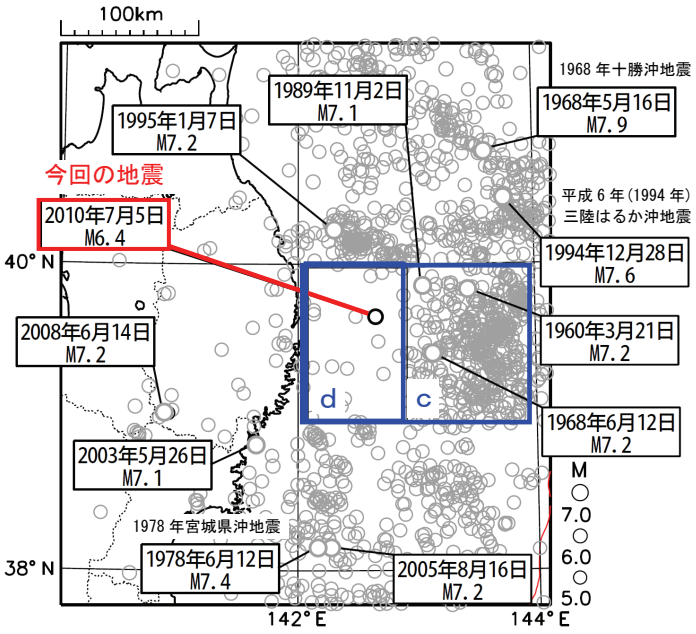


発震機構は CMT 解を表示

領域 a の断面図（A－B 投影）



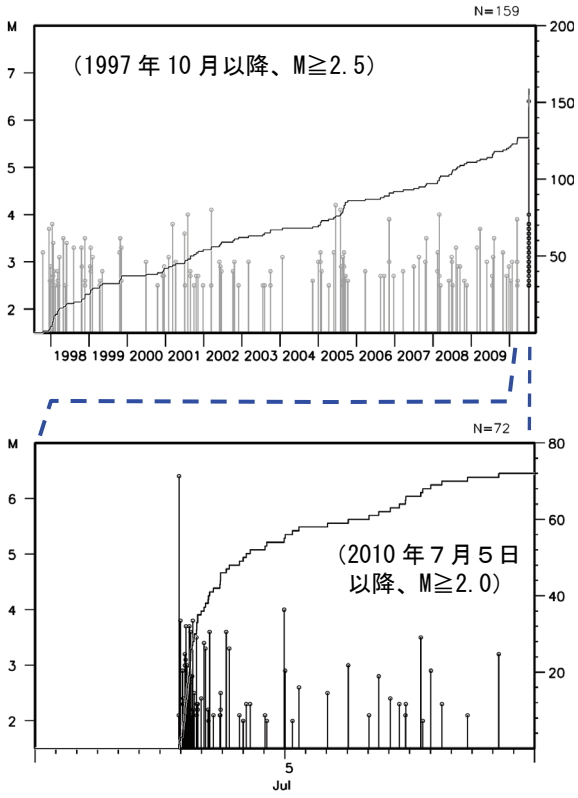
震央分布図（1923 年 8 月 1 日～2010 年 7 月 5 日 深さ 0～90km、M≧5.0）



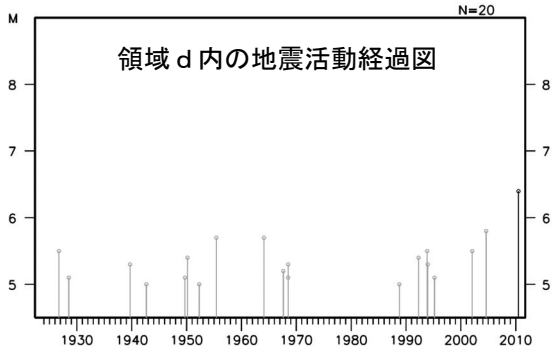
2010 年 7 月 5 日 06 時 55 分に岩手県沖の深さ 34km で M6.4 の地震（最大震度４）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は東-西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。余震活動はやや活発であるが、震度１以上を観測した地震は発生していない。（7 月 5 日現在）

1997 年 10 月以降の地震活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ内）では、M5.0 を超える地震は発生していない。

領域ｂ内の地震活動経過図・回数積算図

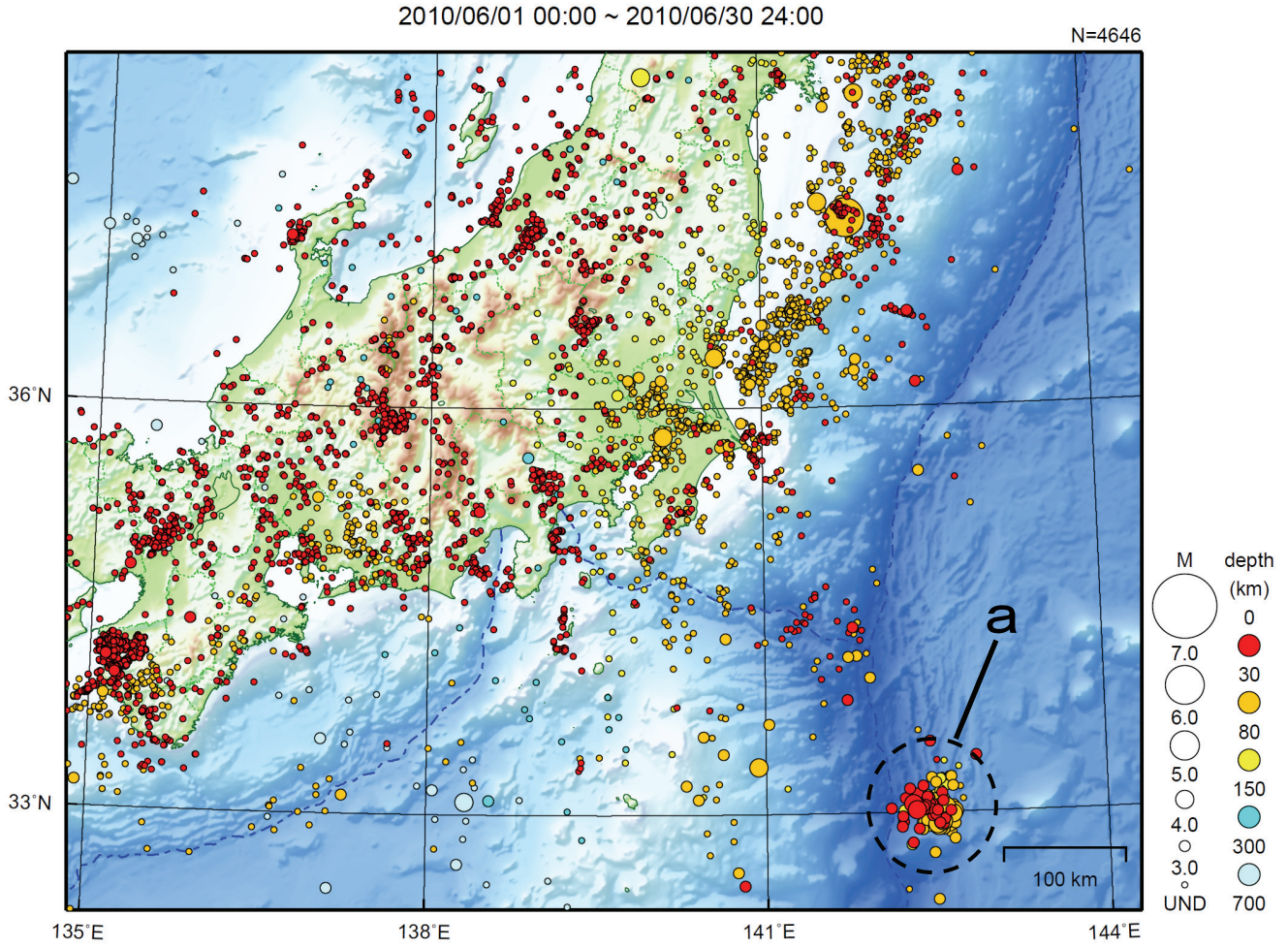


1923 年８月以降の地震活動をみると、岩手県沖（領域ｃ）は、M7.0 を越える地震が時々発生するなど、地震活動が活発な領域である。今回の地震の周辺（領域ｄ）では、M5.0 を超える地震が時々発生する程度で、M6.0 を超える地震は発生していなかった。



気象庁作成

関東・中部地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

a）八丈島東方沖（海溝軸の東側）で、５月 29 日頃から M4.8 を最大とする、やや活発な地震活動が発生している。

（上記期間外）

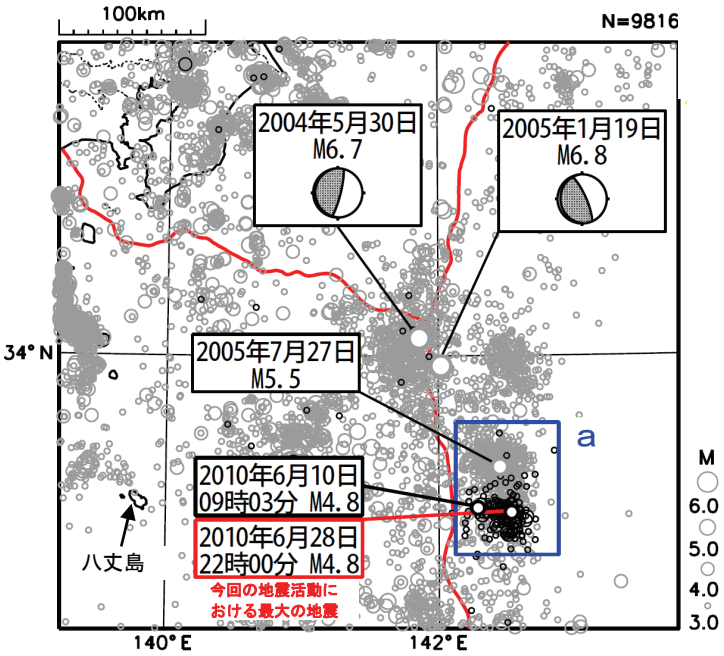
７月４日に茨城県南部で M4.5 の地震（最大震度３）が発生した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

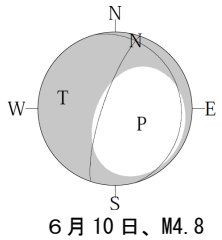
気象庁・文部科学省

八丈島東方沖の地震活動

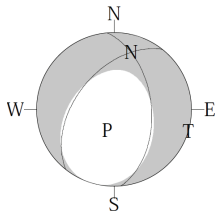
震央分布図（1997 年 10 月 1 日～2010 年 7 月 4 日、
深さ 0～120km、M≧3.0）
（2010 年 6 月以降の地震を濃く表示）



赤線は海溝軸を示す、
発震機構解は CMT 解を表示。

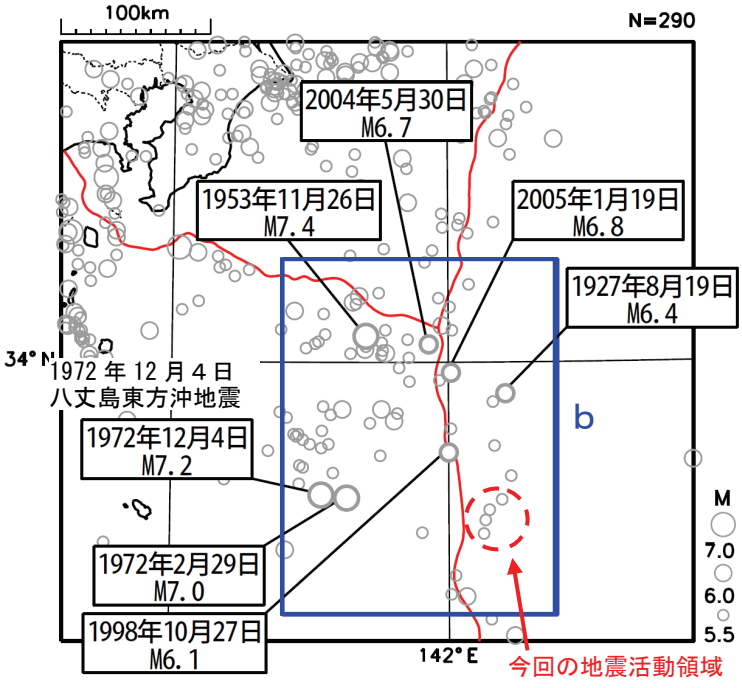


6 月 10 日、M4.8



6 月 28 日、M4.8

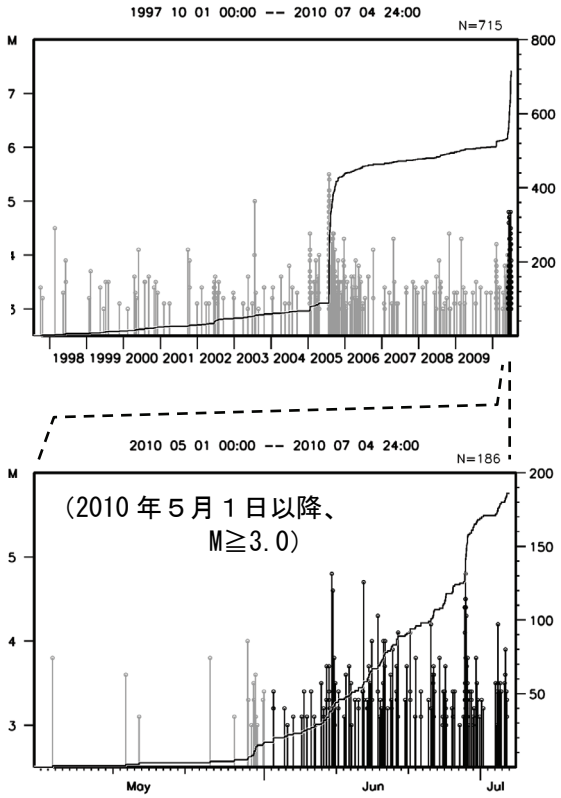
震央分布図（1923 年 8 月 1 日～2010 年 7 月 4 日、
深さ 0～120km、M≧5.5）



2010 年 5 月 29 日頃から八丈島東方沖の海溝軸の東側で地震活動が活発となっている。今回の活動における最大の地震は 6 月 10 日と 28 日の M4.8 の地震である。活動は 7 月 4 日現在、継続している 。

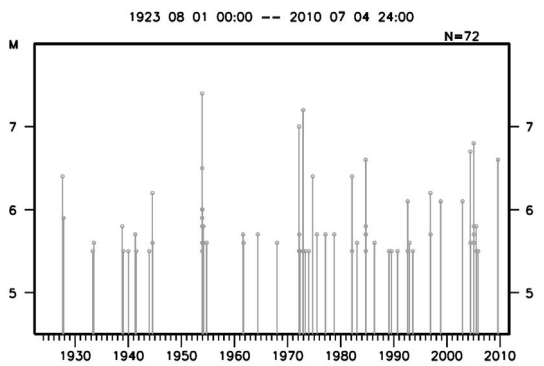
1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震活動の震源付近（領域 a）では、2005 年 7 月にも同様の地震活動がみられ、約 2 か月継続した。最大の地震は M5.5 であった。

領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図



1923 年 8 月以降の活動を見ると、八丈島の東方の海域では（領域 b）、M7.0 を超える地震が 3 回発生している。今回の活動付近では M6.0 を超える地震は発生していない。

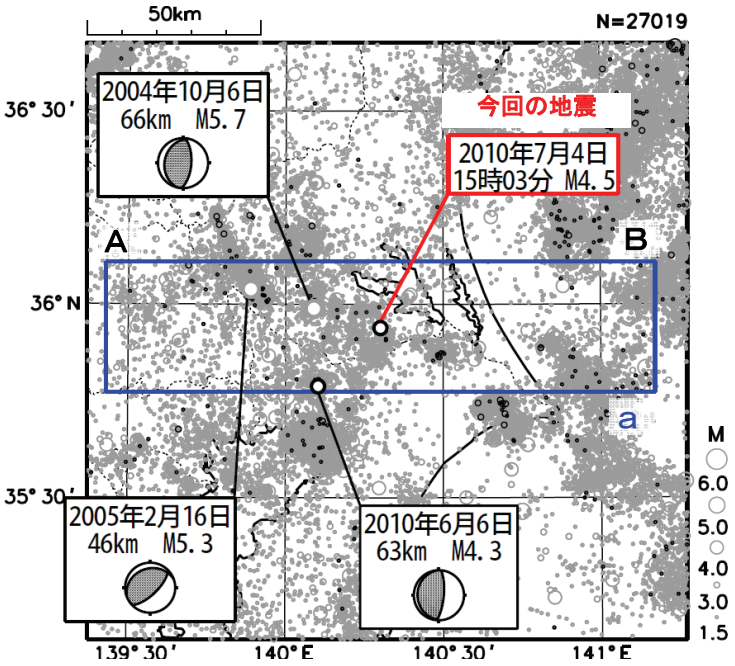
領域 b 内の地震活動経過図



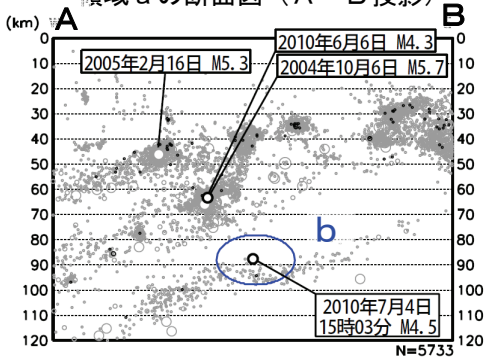
気象庁作成

７月４日　茨城県南部の地震

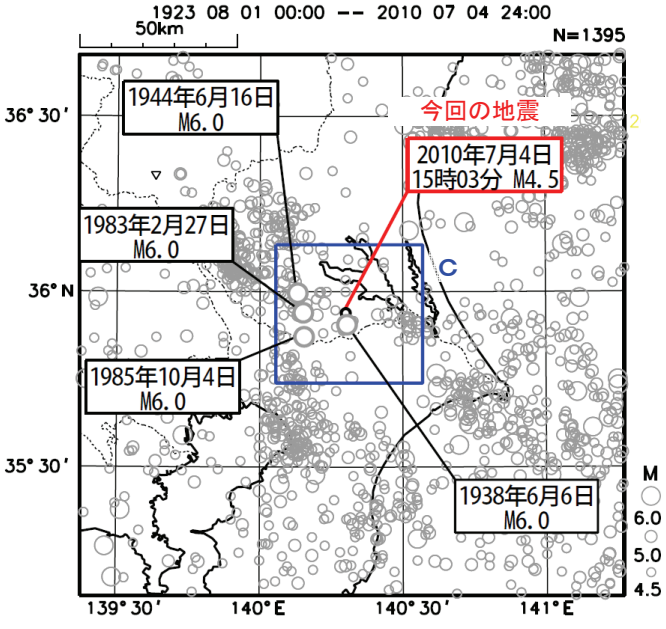
震央分布図（1997 年 10 月１日～2010 年７月４日、
深さ０～120km、M≧1.5）
（2010 年６月以降の地震を濃く表示）



領域ａの断面図（Ａ－Ｂ投影）



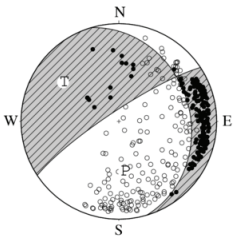
震央分布図（1923 年８月１日～2010 年７月４日、
深さ０～120km、M≧4.5）



2010 年７月４日 15 時 03 分に茨城県南部の深さ 88km で M4.5 の地震（最大震度３）が発生した。

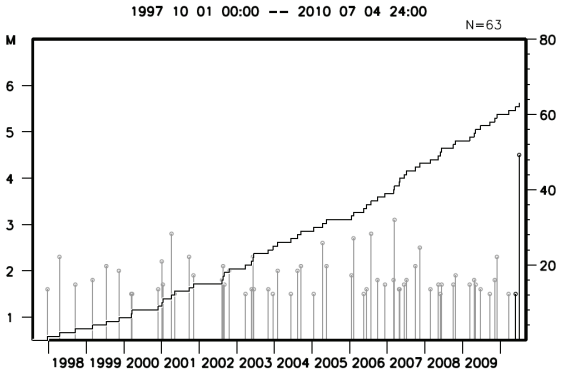
この地震は沈み込む太平洋プレートの内部（二重地震面の下面）で発生した地震である。発震機構は西北西－東南東方向に張力軸を持つ型であった。

1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震活動の震源付近（領域ｂ）ではM4.0 を超えるような地震は発生していなかった。



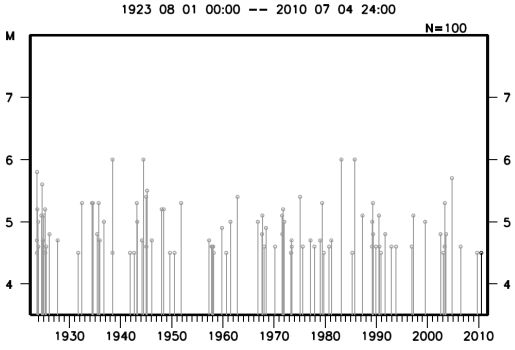
今回の地震の発震機構

領域ｂ内の地震活動経過図、回数積算図



1923 年８月以降の活動を見ると（領域ｃ）、M6.0 を超える地震が４回発生している。今回の地震の震央付近では、1938 年６月６日に M6.0 の地震が発生している。

領域ｃ内の地震活動経過図

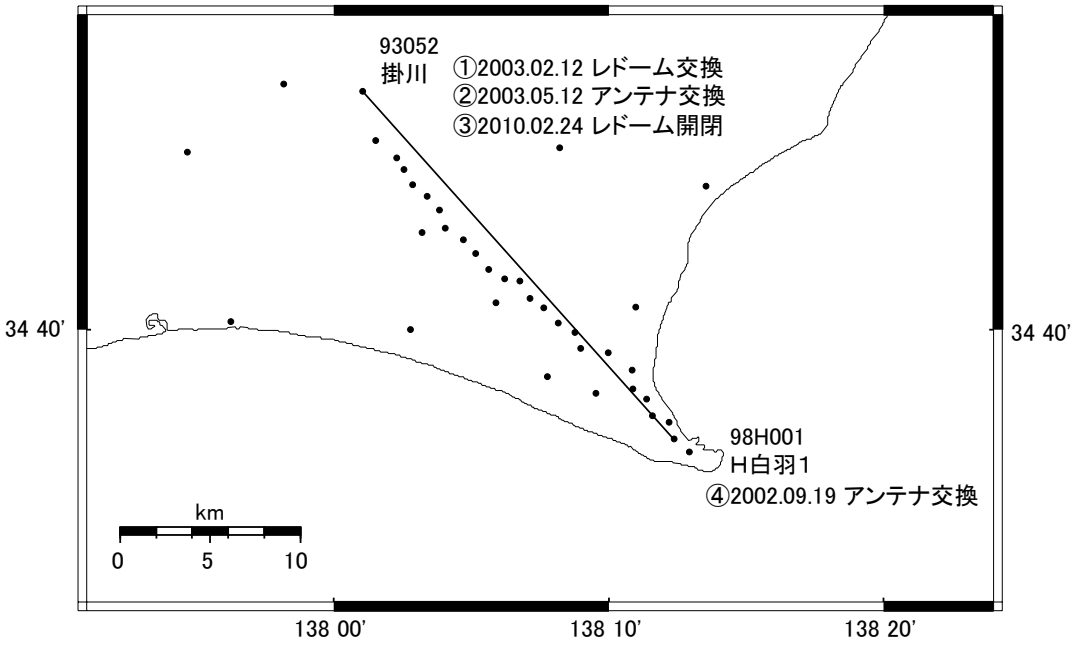


気象庁作成

掛川市－御前崎市間のGPS連続観測結果(斜距離･比高)

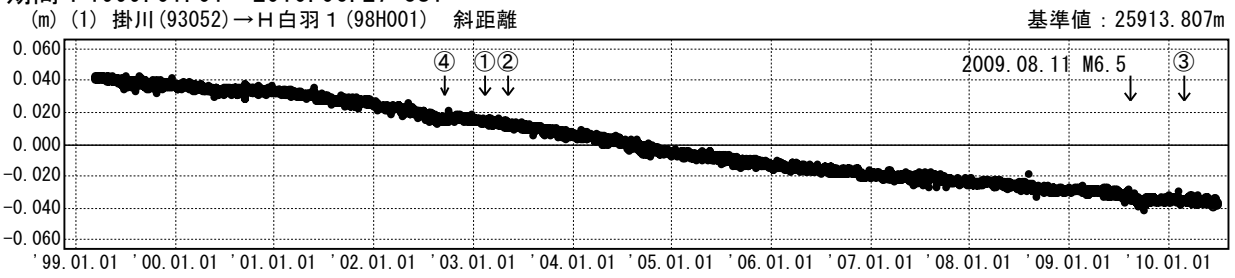
特段の変化は見られない.

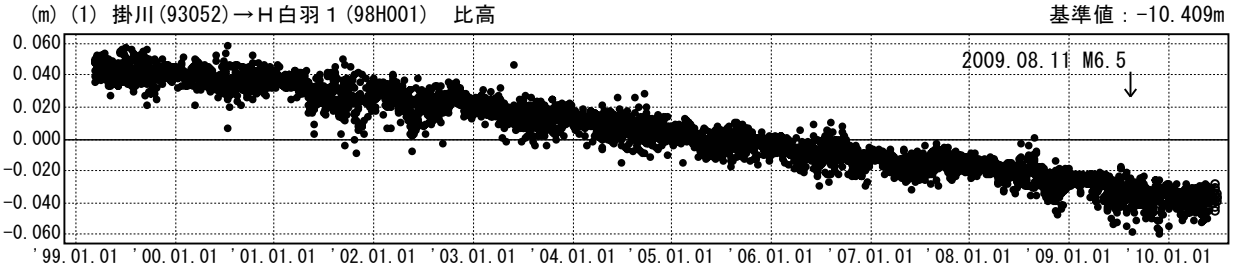
掛川･H白羽1 GPS連続観測基線図



1999年1月からの基線変化グラフ（斜距離・比高）

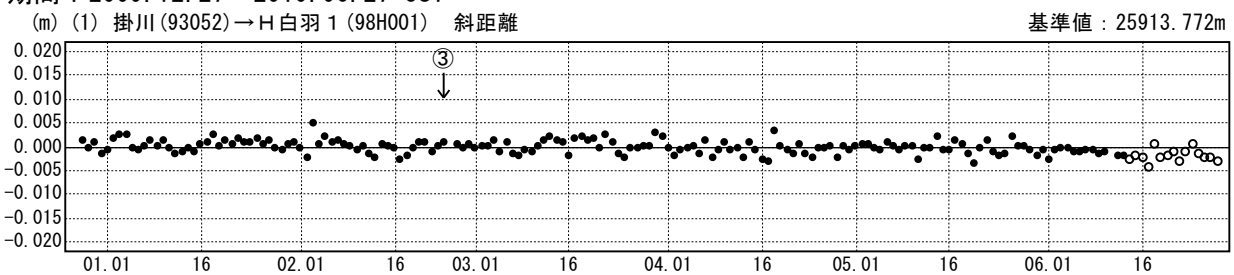
期間：1999.01.01～2010.06.27 JST

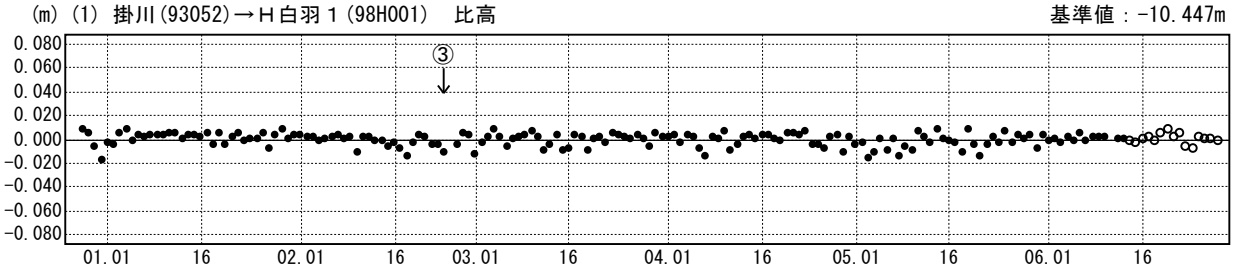




最近6ヶ月間の基線変化グラフ（斜距離・比高）

期間：2009.12.27～2010.06.27 JST





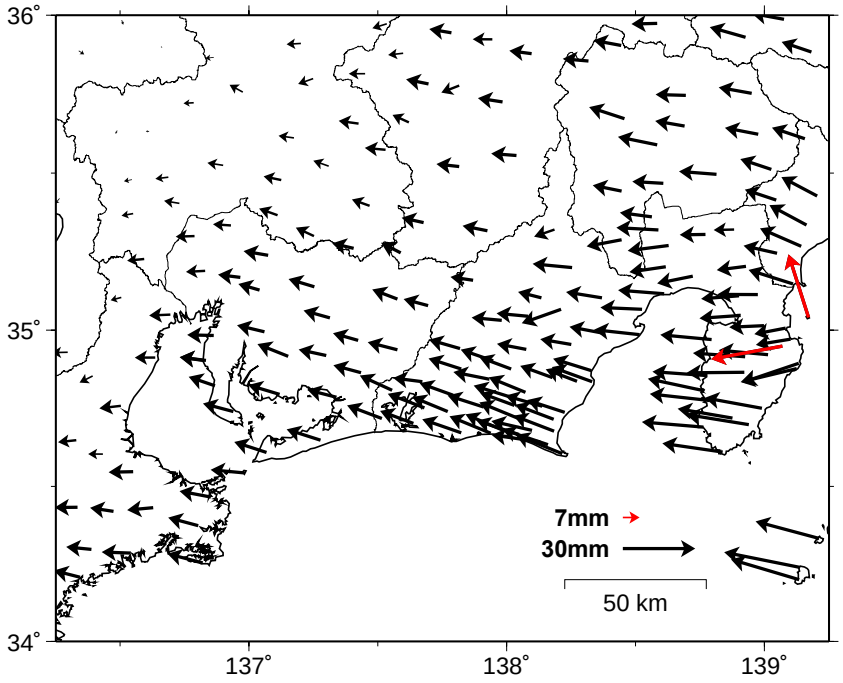
● ---[F3:最終解] ○ ---[R3:速報解]

国土地理院

東海地方の最近の水平地殻変動【大潟固定】

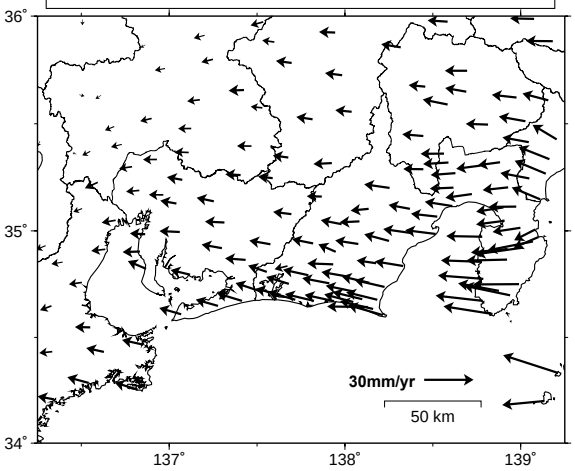
（ **2009** 年 **6** 月～ **2010** 年 **6** 月）

基準期間：**2009/5/29 − 2009/6/12** ［F3：最終解 ］
比較期間：**2010/5/29 − 2010/6/12** ［F3：最終解 ］

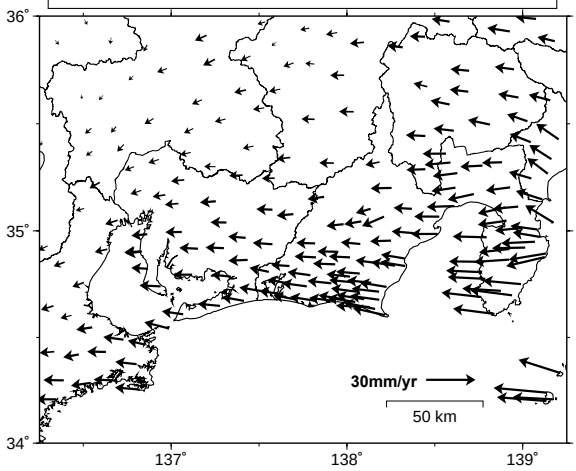


・スロースリップ終息後の変動速度ベクトル（右下図）との差の絶対値が７㎜　以上の変動ベクトルを赤矢印で表示している。
・2009 年 8 月 11 日に発生した駿河湾の地震による地殻変動の影響は取り除いている。
・2009 年 12 月の伊豆半島東方沖の地震活動に伴う地殻変動の影響は取り除いていない。

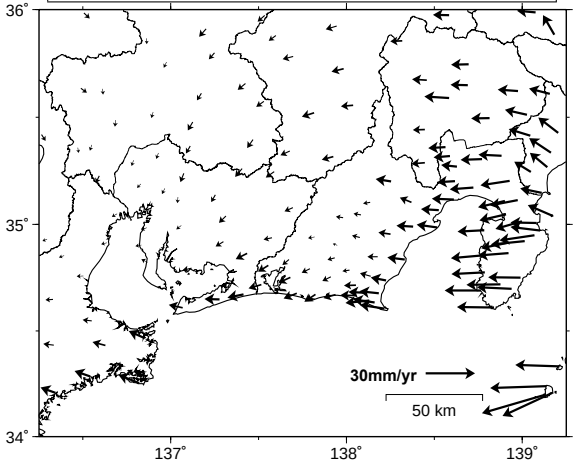
スロースリップ発生前の水平地殻変動速度
（１９９７年１月～２０００年１月）



スロースリップ終息以後の水平地殻変動速度
（２００６年１月～２００９年１月）



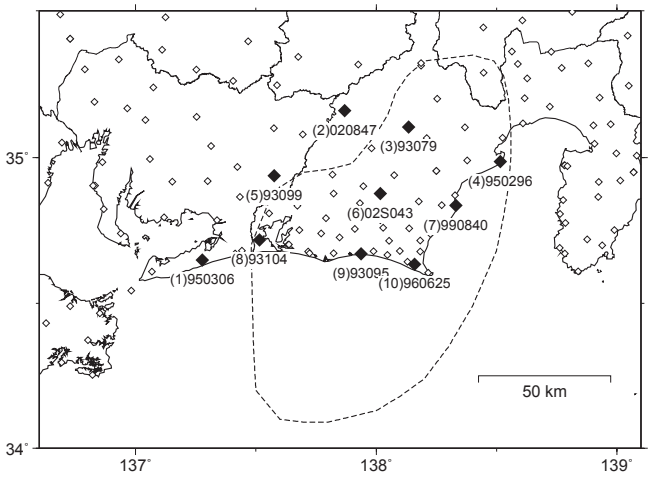
スロースリップ進行期の水平地殻変動速度
（２００１年１月～２００４年１月）



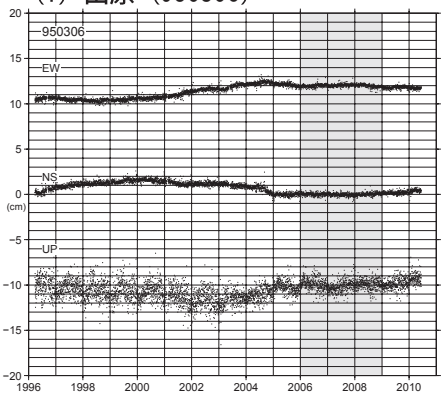
国土地理院

東海地方の非定常地殻変動時系列【大潟固定】

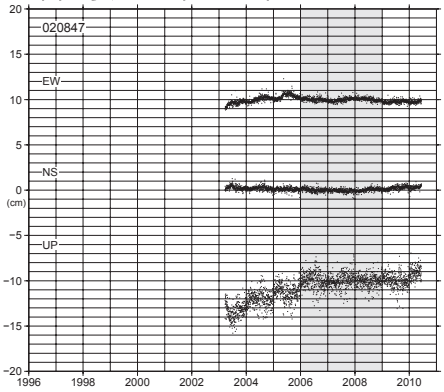
最終解　**1996/4/10 − 2010/6/12**



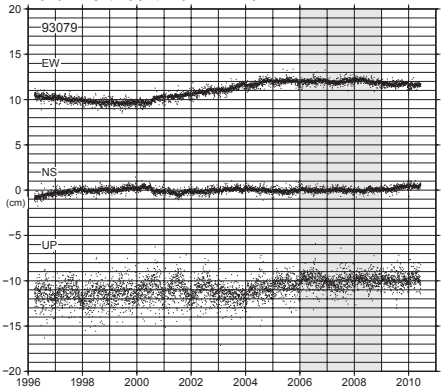
(1) 田原 (950306)



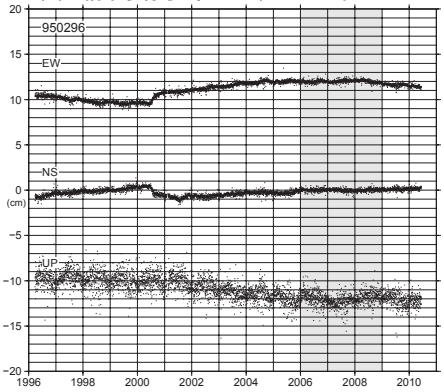
(2) 水窪A (020847)



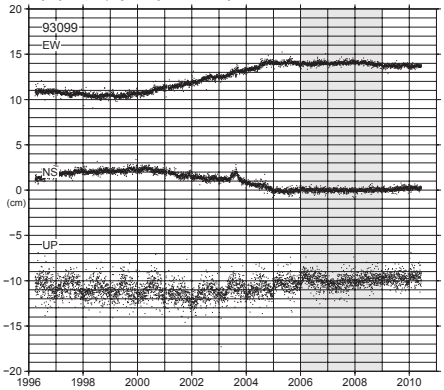
(3) 本川根 (93079)



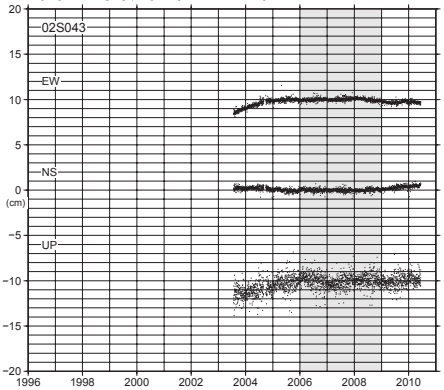
(4) 静岡清水市２ (950296)



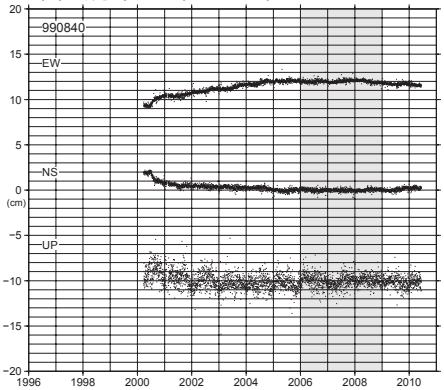
(5) 鳳来 (93099)



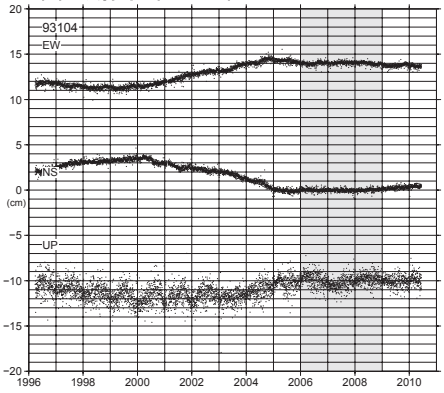
(6) S 掛川 (02S043)



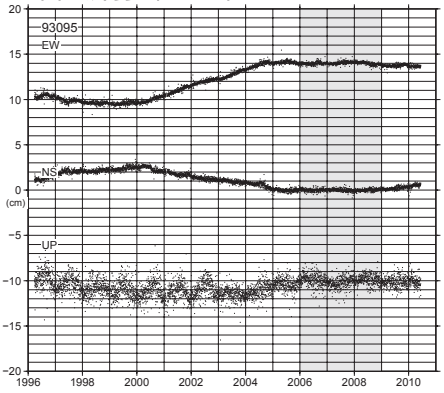
(7) 焼津A (990840)



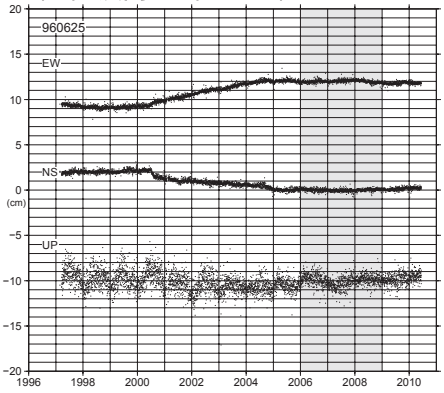
(8) 湖西 (93104)



(9) 浅羽 (93095)



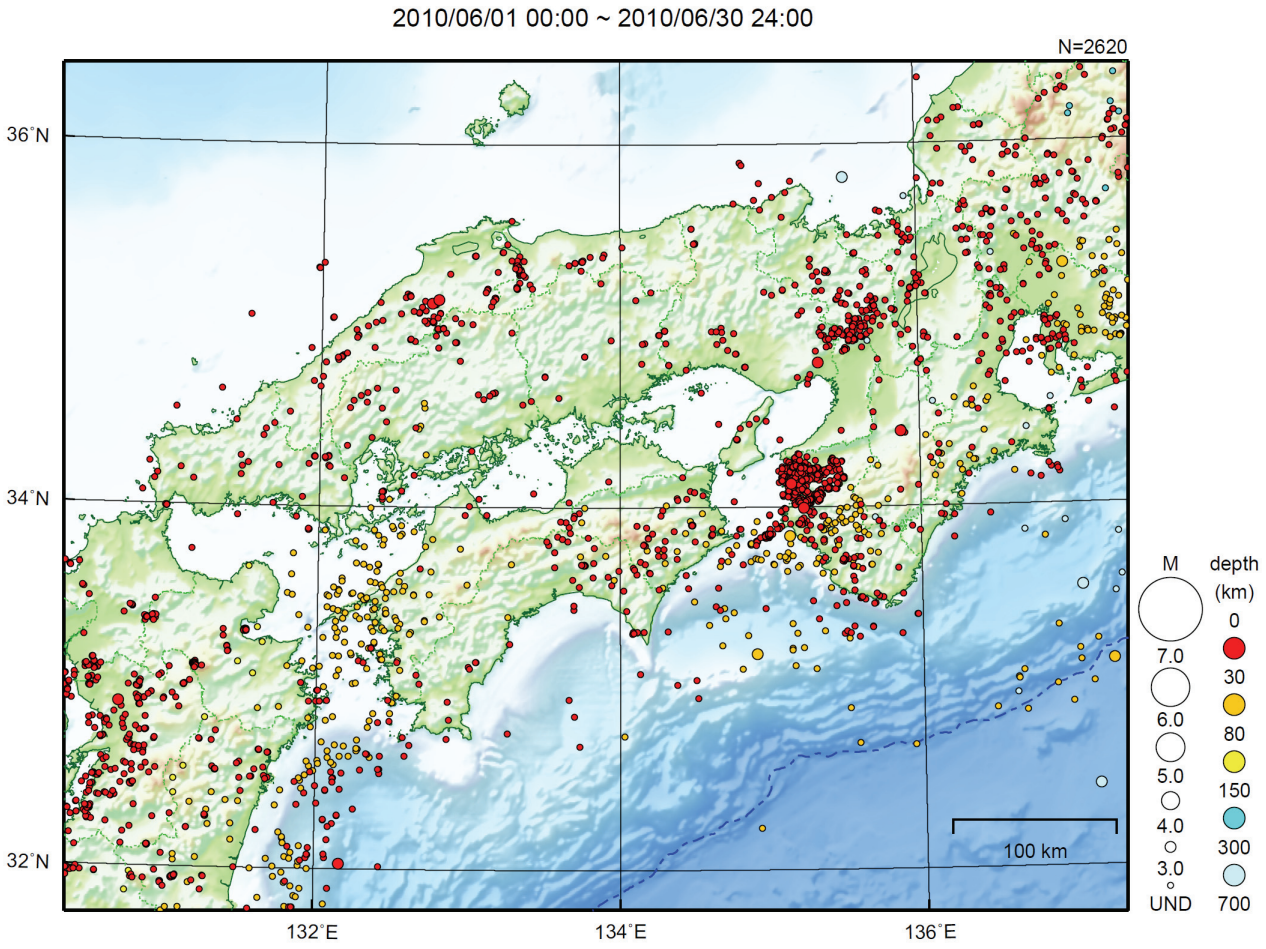
(10) 浜岡２ (960625)



・2006 年 1 月～2009 年 1 月のデータから平均変動速度と年周/半年周成分を推定して、元の時系列データから除去している。
・2004 年 9 月 5 日に発生した紀伊半島南東沖の地震、2009 年 8 月 11 日に発生した駿河湾の地震による地殻変動の影響は取り除いている。
・2004 年 10 月 23 日に発生した新潟県中越地震、2005 年 8 月 16 日に発生した宮城県沖の地震、2007 年 3 月 25 日に発生した能登半島地震、2007 年 7 月 16 日に発生した新潟県中越沖地震による固定局大潟の地殻変動の影響は取り除いている。

国土地理院

近畿・中国・四国地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

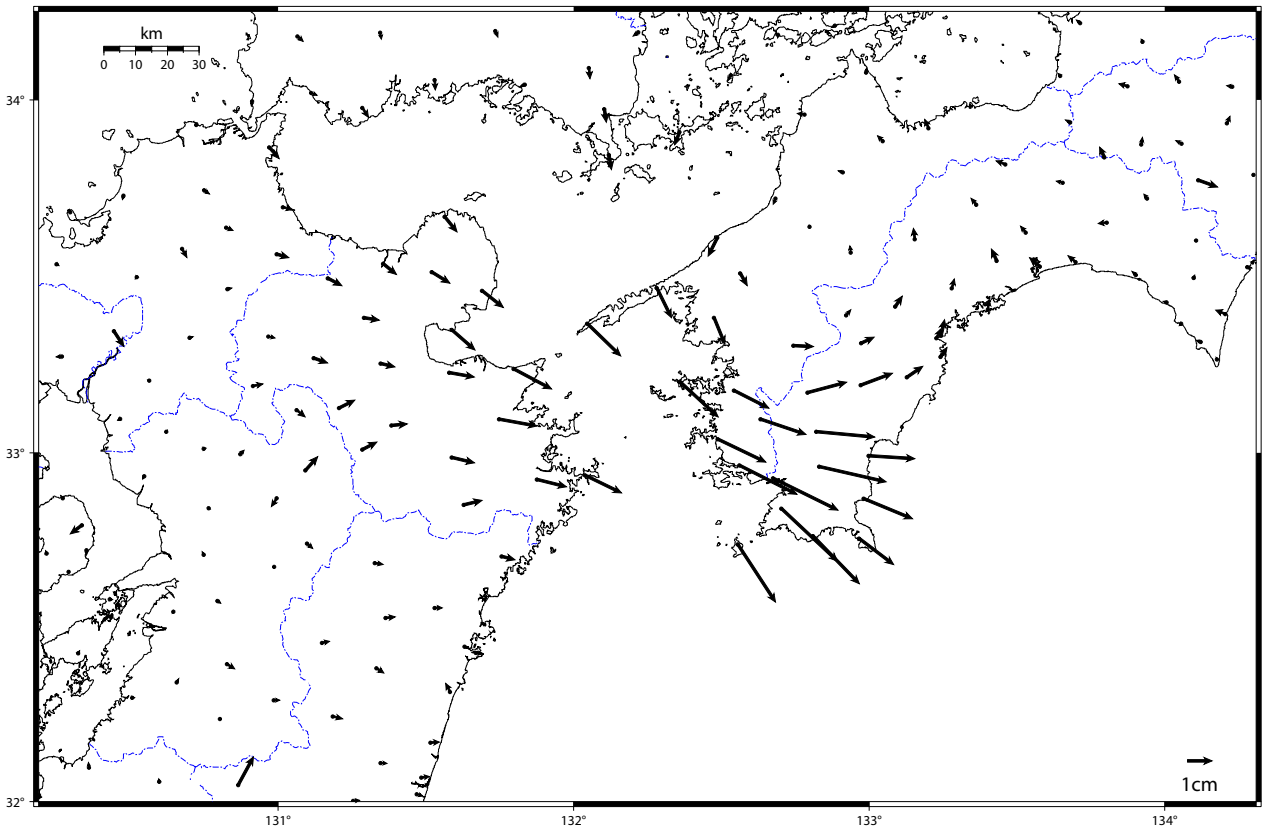
豊後水道周辺の非定常的な地殻変動（５）

前回のSSE(2003年頃)との比較の変動ベクトル図

１次トレンド・年周・半年周成分除去後　変動ベクトル図（水平）　（2009年4月～2010年6月）

計算期間 2007/01/01 - 2009/01/01

基準期間：2009/04/01 - 2009/04/07
比較期間：2010/06/22 - 2010/06/28



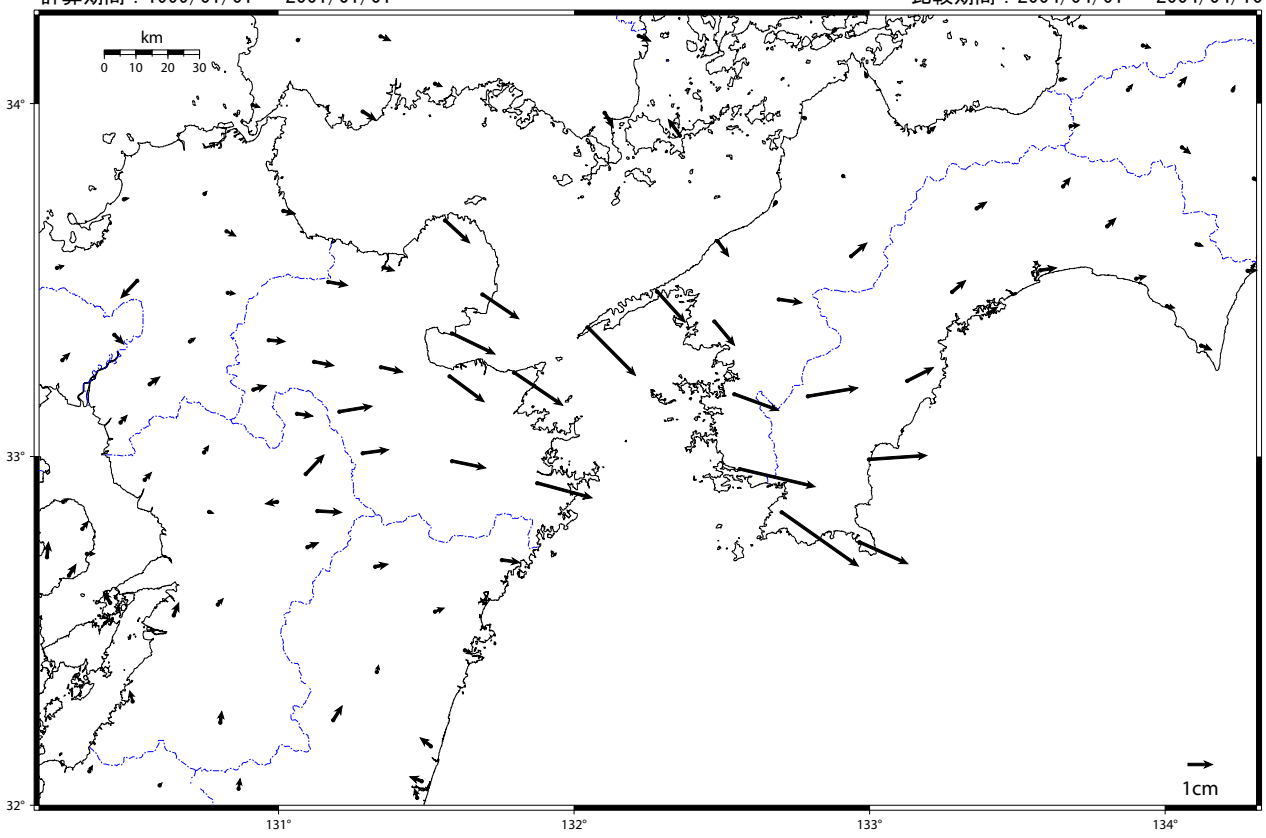
［基準：Ｆ３最終解　比較：Ｒ３速報解］

☆固定局：三隅（９５０３８８）

１次トレンド・年周・半年周成分除去後　変動ベクトル図（水平）　（2003年1月～2004年4月）

計算期間：1999/01/01 - 2001/01/01

基準期間：2003/01/01 - 2003/01/10
比較期間：2004/04/01 - 2004/04/10

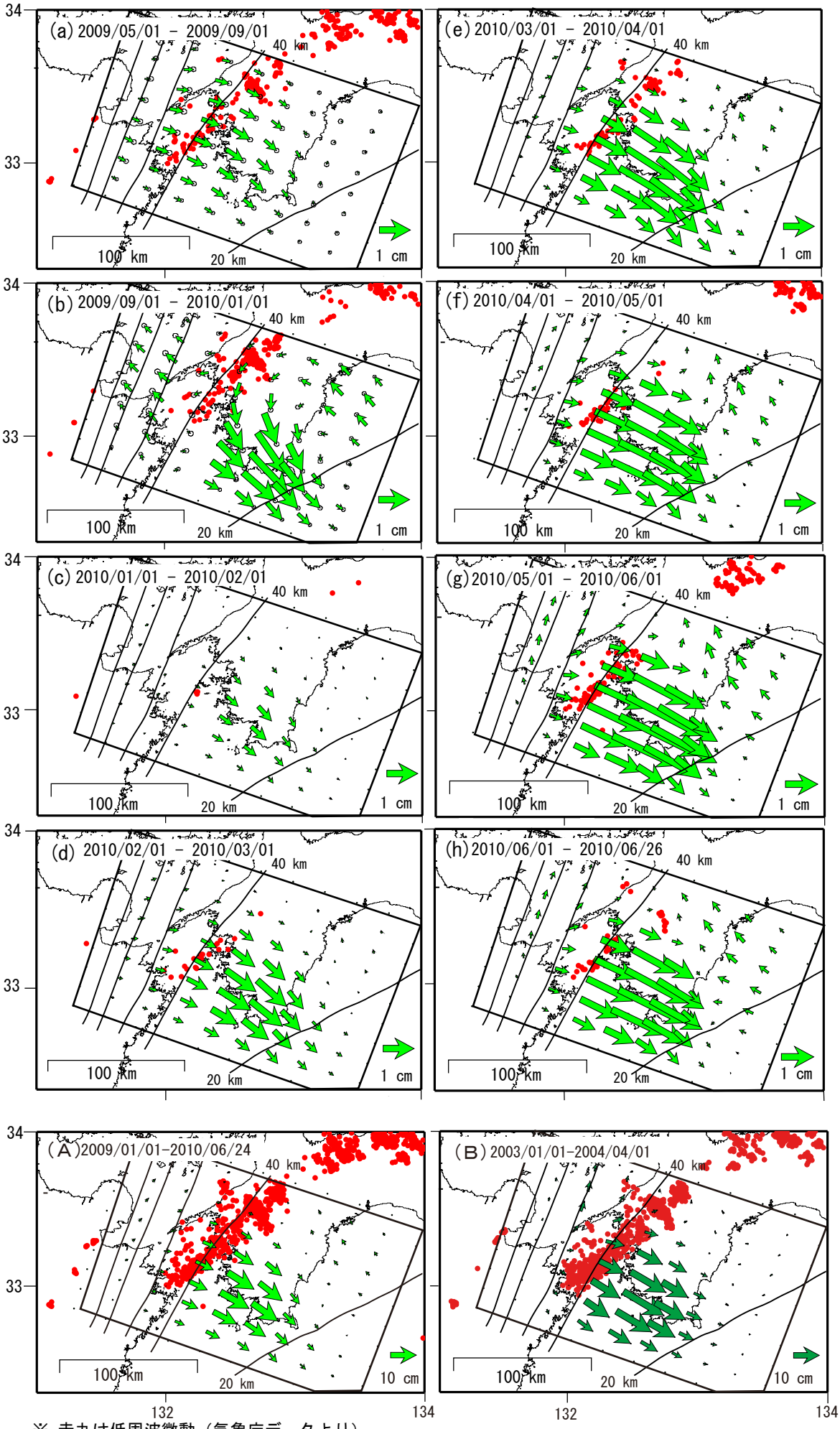


［Ｆ３最終解］

☆固定局：三隅（９５０３８８）

国土地理院

豊後水道・四国南西部の推定プレート間すべり分布

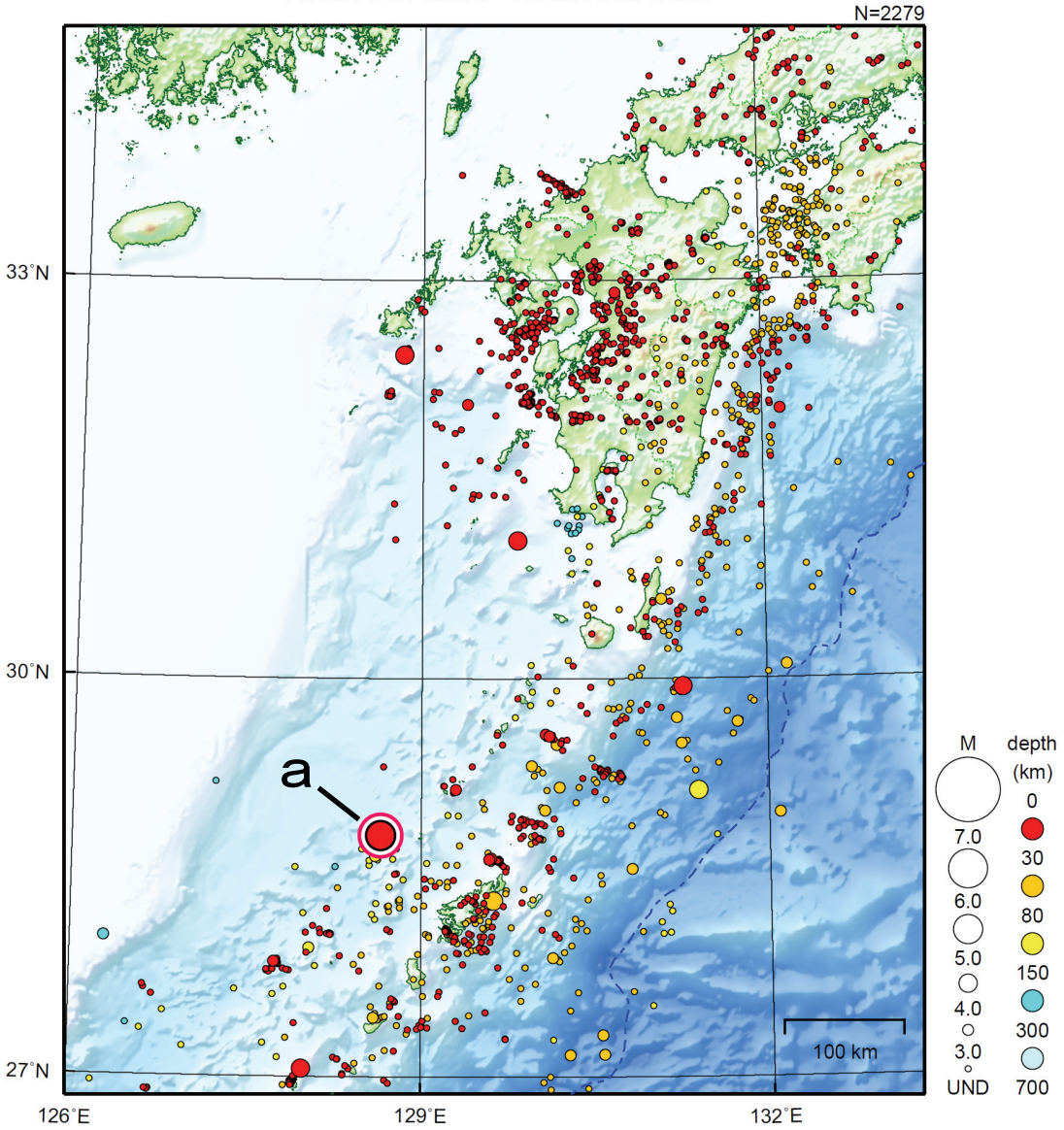


※ 赤丸は低周波微動（気象庁データより）

国土地理院

九州地方

2010/06/01 00:00 ~ 2010/06/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

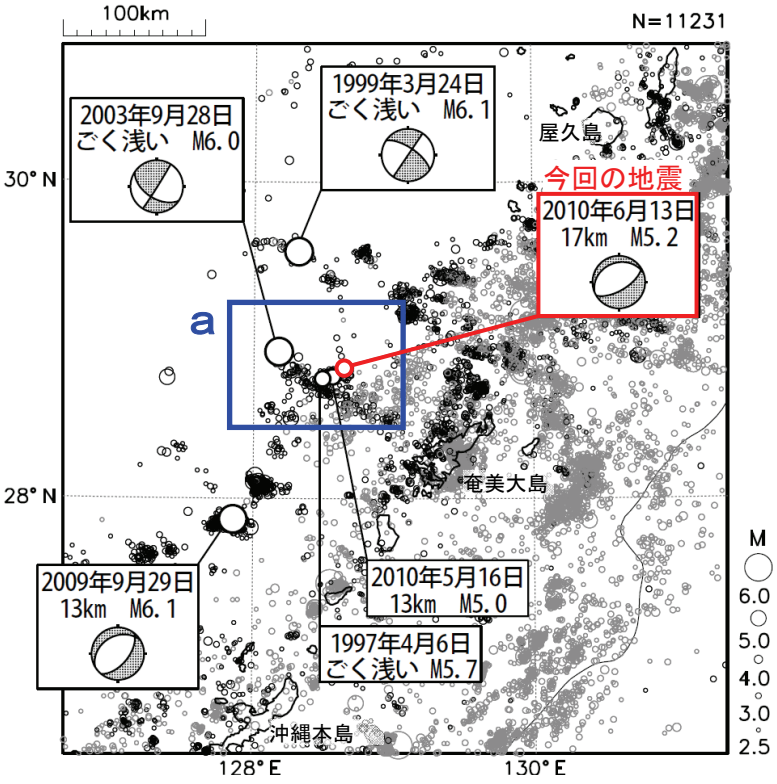
a） 6 月 13 日に奄美大島北西沖で M5.2 の地震（最大震度３）が発生した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

６月 13 日　奄美大島北西沖の地震

震央分布図（1997 年１月１日～2010 年６月 30 日、
M≧2.5、深さ０～80km）
深さ０～25km の地震の震源を濃く表示。
発震機構は CMT 解である。

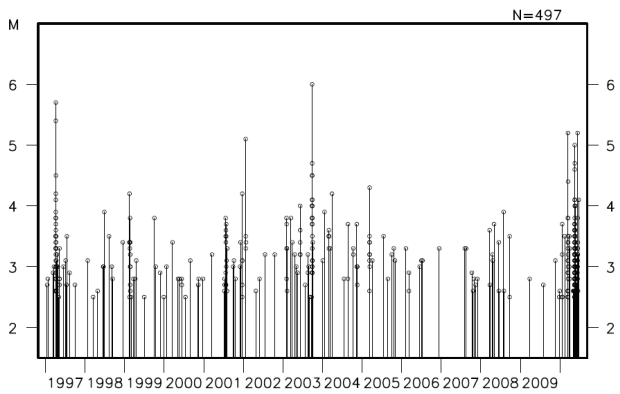


2010 年６月 13 日 00 時 44 分に奄美大島北西沖で M5.2 の地震（最大震度３）が発生した。発震機構（CMT 解）は北北西－南南東方向に張力軸を持つ正断層型であった。

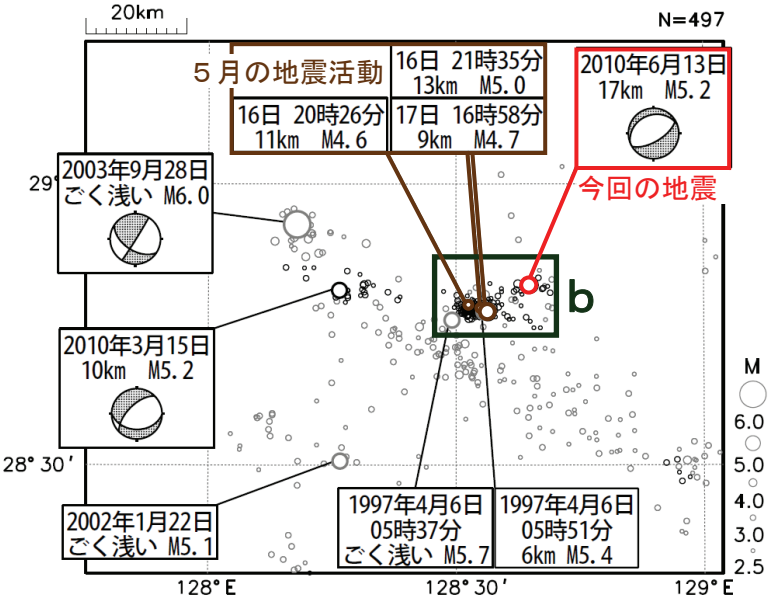
今回の地震の震源近傍では、今年５月 16 日から地震活動が活発化していた。今回の地震を含む一連の活動では、活動領域が徐々に東に移動した。

1997 年１月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域ａ）は周囲に比べて地震活動が比較的活発な場所である。今回の地震の震央近傍では 1997 年４月にも M5.0 以上の地震２回を含む活発な活動があった。

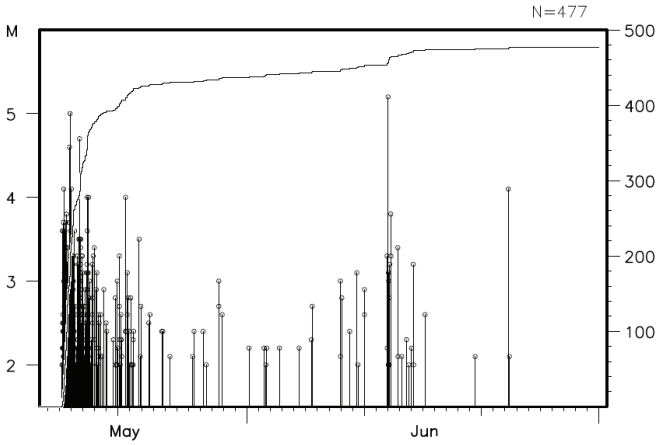
領域ａ内の地震活動経過図
（1997 年１月１日～2010 年６月 30 日、M≧2.5）



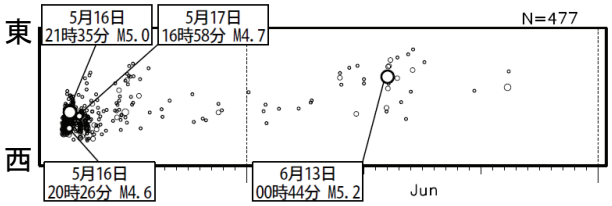
領域ａ内の震央分布図（1997 年１月１日～2010 年６月 30 日、
M≧2.5、深さ０～25km）
2010 年１月以降の地震の震央を濃く表示。
発震機構は CMT 解である。



領域ｂ内の地震活動経過図、回数積算図
（2010 年５月 15 日～６月 30 日、M≧2.0）

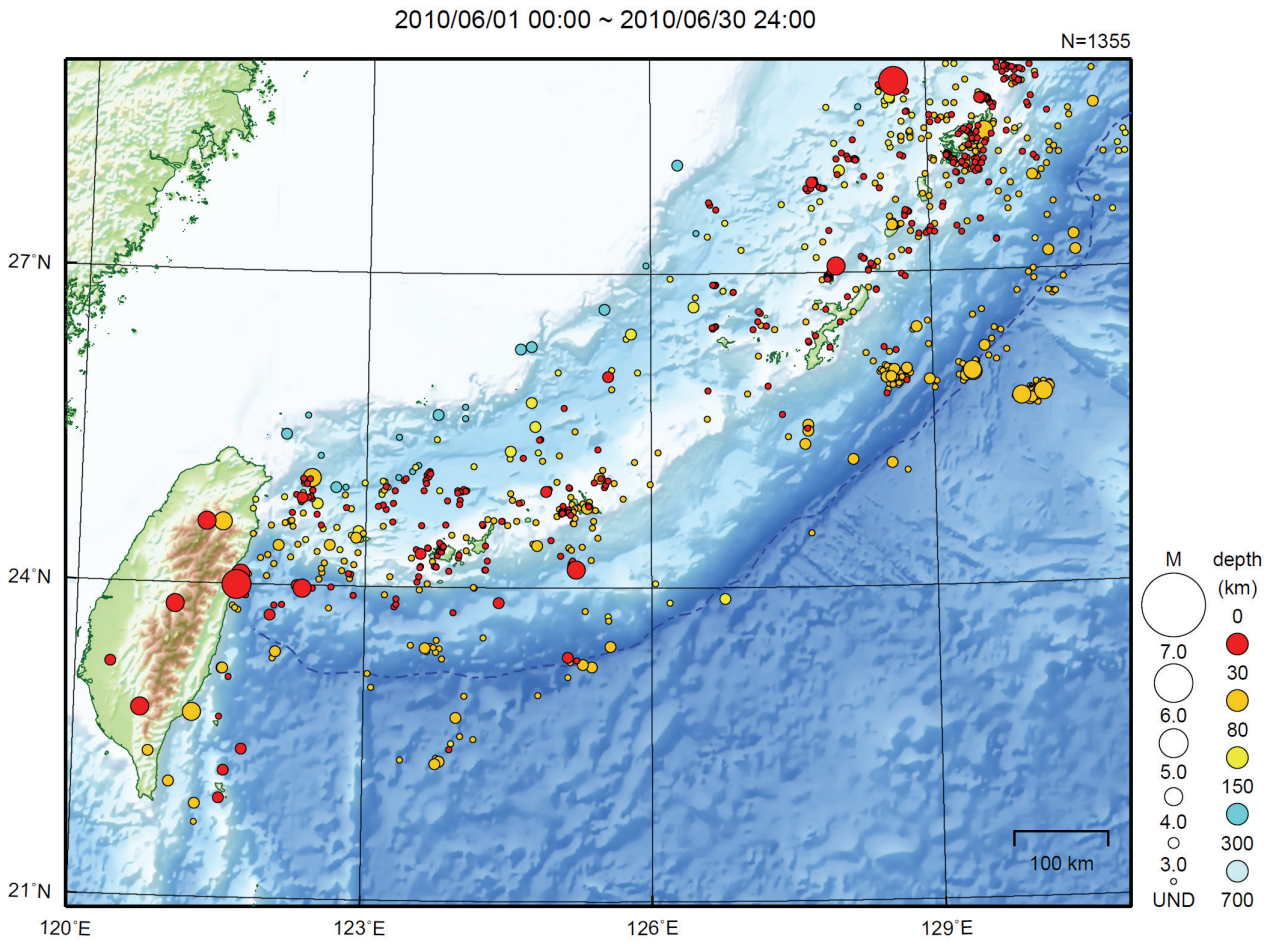


領域ｂ内の時空間分布図（東西投影）
（2010 年５月 15 日～６月 30 日、M≧2.0）



気象庁作成

沖縄地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省